

表現する楽しさを味わう生徒を育てるダンス領域の学習指導 ～再構成活動を位置付けた学習過程を通して～

長期派遣研修員 嘉麻市立稲築東中学校 教諭 佐藤 祐樹

I 主題設定の理由

1 学習指導要領の改訂から

平成 20 年の中学校学習指導要領改訂では、保健体育科の目標において「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」が目標の一つとして明確にされ、運動の楽しさや喜びを味わうことが、引き続き体育の重要なねらいであることが示された。「運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする」とは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、運動を楽しんだり、その運動のもつ特性や魅力に触れたりすることである。第 1 学年及び第 2 学年では、すべての運動領域が必修となり、ダンス領域についても、すべての生徒にダンスの特性や魅力を十分触れさせなければならない。つまり、ダンス領域においては、すべての生徒が仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージやリズムをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができるようにしなければならないのである。

そこで、本研究において、ダンス領域を取り上げ、生徒に表現する楽しさを味わわせることは、保健体育科の目標を目指す上でも意義深いと考える。

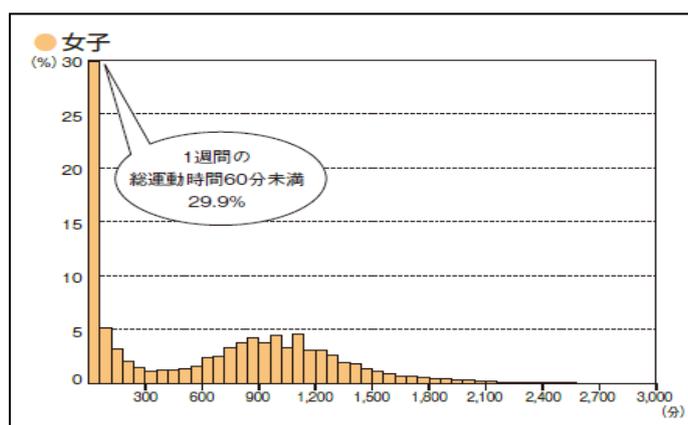
2 社会の要請から

【グラフ 1】に示すように、平成 25 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、中学校 2 年生女子の 1 週間の総運動時間の結果において、1 週間の総運動時間 60 分未満の生徒の割合は 29.9% であった。また、1 週間の総運動時間が 60 分未満の生徒のうち、「運動時間が 0 分」の割合は、80.2% であった。つまり、全体の 23.9% が「運動時間が 0 分」ということになる。さらに、これらの生徒の特徴として、運動時間が少ない生徒ほど、運動やスポーツに対して、「苦手」「嫌い」「楽しくない」とマイナスのイメージを強く持っているという結果が示された。このように、運動する生徒としない生徒の二極化の傾向は、非常に深刻な状況である。

また、次頁の【グラフ 2】は、「もっと運動やスポーツをするようになるには」との質問に対す

【グラフ 1：中学生女子の運動時間】

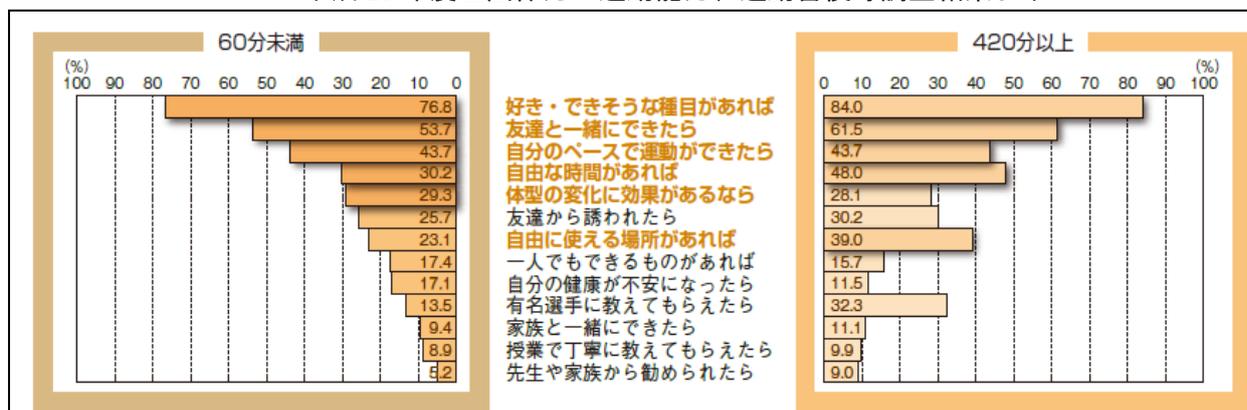
平成 25 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より



る中学生女子の回答である。運動時間の多少に限らず「好き・できそうな種目があれば」「友達と一緒にできたら」「自分のペースで運動やスポーツができたなら」が上位となっている。生徒が意欲的に運動に取り組むためには、保健体育の授業にも、このような視点を考慮する必要があると考える。

【グラフ2：中学生女子のもっと運動やスポーツをするようになる条件】

平成 25 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より



このような状況の中で、保健体育の授業では、保健体育科の目標である「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」を目指すとともに、生徒がもっと運動やスポーツに対するイメージを変えていく役割があると考え。

本来、ダンス領域は、勝敗もなく、他領域に比べると「できる・できない」が明確に見えにくいですが、生徒が今もっている力で自由に表現したり、仲間と一緒に踊ったりすることができるため、運動に対するマイナスイメージをプラスに変えることができると考える。

そこで、本研究において、友達と一緒にいかかわり合いながら表現することの楽しさを味わうことにより、もっと運動を試みようという意欲や運動に親しむ資質や能力をはぐくむことができると考え、本主題を設定した。

3 ダンス学習の課題・指導上の反省から

ダンス領域の学習について、佐藤（「中等教育資料」平成 26 年 8 月）は、ダンスの実施領域についての偏重などの課題やダンスの指導上の課題を指摘し、「『現代的なリズムのダンス』の領域の指導に偏っている」「『現代的なリズムのダンス』が行いやすく、流行りの曲で創作させるの多い」といった意見を紹介している。私自身の授業においては、現代的なリズムのダンスでは、生徒がリズムに乗るための指導がうまくできず、創作ダンスでは恥ずかしさから自分から表現しようとしなない生徒への支援が十分にできなかった。また、体育会でのダンスやこれまでの学習経験から表現すること自体に抵抗を示す生徒が多かった。つまり、リズムの特徴をとらえた動きや表したいイメージにふさわしい動きを引き出すことができなかつたため、生徒がダンスの本質的特性である自己を表現することの楽しさを味わうまでには至らなかつたと考える。

これらの課題や指導の反省を踏まえ、教師が身に付けさせるべき動きや表現を明確にして技能を高めるとともに、仲間と互いの個性や表現を認め合って取り組むことで、心も体も解放され、表現する楽しさを味わうことができると考え、本主題を設定した。

II 主題・副主題の意味

1 主題の意味

(1) 「表現」について

「表現」とは、題材や曲からとらえたイメージやリズムの特徴を体の動きとして表し出すことである。

一般的な表現とは、自分の内面的・精神的なものをいろいろな媒体を用いて形に表すことであり、言葉、音楽、色、絵画、動きなどがある。例えば、赤ちゃんは不快な感情を示すために全身で泣き、逆に快い感情を表すために、手足をバタバタさせて「きゃっきゃっ」と声に出して笑う。人は、勝負に勝って嬉しい時はガッツポーズで表し、負けて悔しい時は肩を落とす。軽快な音楽を聴くと、自然と体が揺らぎだしたり、リズムに乗ったりする。このように、表現とは、自分の体を手段として、自分自身を表し出すことと考える。

そこで、本研究では、「表現」を題材や曲からとらえたイメージやリズムの特徴を体の動きとして表し出すことと定義する。

(2) 「表現する楽しさ」について

「表現する楽しさ」とは、題材や曲からとらえたイメージやリズムの特徴を体の動きとして表し出すことによって生じる、イメージやリズムの世界に没入して踊る楽しさや仲間と交流して踊る楽しさのことである。

運動の楽しさについて、赤松（1995）は、「プレイ欲求の充足に機能する個々の運動の有する本質的価値（楽しさ）のこと」と定義している。また、ダンスを運動の特性から「模倣・変身あるいはイメージやリズムを身体で表現する楽しさを満たす運動」と分類している。ダンスには、他のスポーツや体操にある「競う」「鍛える」「記録の向上」とは違った価値として、「表現する」という体の価値を学ばせる意図があると考えられる。

つまり、表現する楽しさとは、自分の体で表現することで得られる価値であり、本研究では、【図1】のようにイメージやリズムの世界に没入して踊る楽しさと、仲間と交流して踊る楽しさと考えられる。また、没入して踊るとは、イメージやリズムの世界にひたり、恥ずかしがらずに夢中になって踊る様子であり、仲間と交流して踊るとは、誰とでも積極的にかかわり、互いのよさを認め合って協力しながら踊る様子であると考えられる。

【図1：表現する楽しさについて】



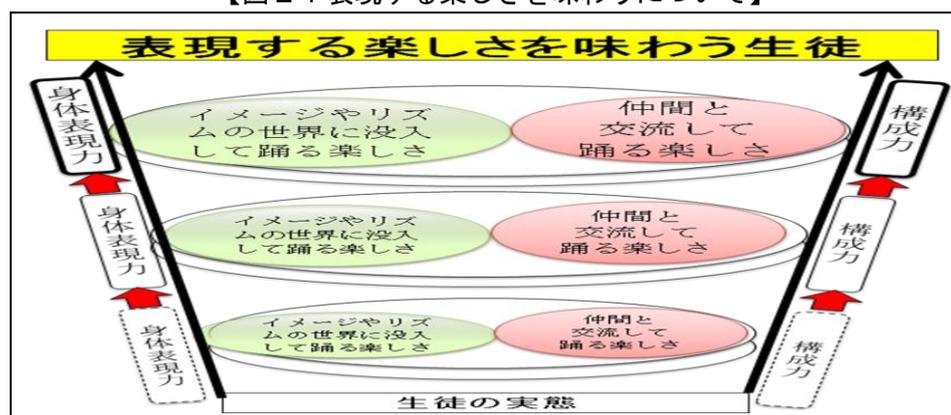
(3) 「表現する楽しさを味わう」について

「表現する楽しさを味わう」とは、題材や曲からとらえたイメージやリズムの特徴を体の動きとして表し出す過程において、身体表現力や構成力を高めながら、イメージやリズムの世界に没入して踊る楽しさや仲間と交流して踊る楽しさを実感することである。

身体表現力とは、表現の仕方を理解して、全身で踊ったり変化をつけた動きで踊ったりすることができる能力のことである。構成力とは、表したいイメージやリズムの特徴にふさわしい動きを考え、組み合わせたり、創りだしたりする能力のことである。

そこで、本研究では、「表現する楽しさを味わう」について、【図2】のようにとらえた。

【図2：表現する楽しさを味わうについて】



(4) 「表現する楽しさを味わう生徒」について

「表現する楽しさを味わう生徒」とは、表現する楽しさを味わう過程及び結果において、運動への関心・意欲・態度、運動についての思考・判断、運動の技能、運動についての知識・理解の4つの資質・能力を発揮し、伸長している生徒のことである。

本研究では、表現する楽しさを味わう生徒について、「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」「運動についての知識・理解」の4つの資質や能力の観点から目指す生徒の姿を【表1】のようにとらえた。

【表1：目指す生徒の姿】

資質や能力	目指す生徒の姿
運動への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力し自分の役割を果たそうとするなど、積極的にダンスに取り組もうとする生徒 ・仲間のよさや違いを認め合ったり、仲間の学習を援助したりして運動に取り組もうとする生徒
運動についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味や関心に合ったテーマや自己の課題を設定することができる生徒 ・発表の場面で、仲間のよい動きや表現などを見つけることができる生徒
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なテーマや題材から表したいイメージやリズムの特徴をとらえ、ふさわしい動きを工夫して即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの動きで踊ったりすることができる生徒
運動についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの特性について、学習した内容を挙げることができる生徒 ・表現の仕方について、学習したキーワードを挙げることができる生徒

2 副主題の意味

(1) 「再構成活動」について

「再構成活動」とは、構成活動、再構成活動1、再構成活動2の一連の活動のことである。

まず、構成活動とは、題材や曲に適した基本的な動き方や表現の仕方、動きの誇張や変化の付け方や組み合わせ方をつかむ活動である。

次に、再構成活動1とは、構成活動でつかんだ基本的な動き方や表現の仕方、動きの誇張や変化の付け方や組み合わせ方を生かしながら、自分なりの動きを即興的に創る活動である。

そして、再構成活動2とは、再構成活動1で創った動きを仲間と交流して、仲間からの評価や改善点をもとに、動きを創り変える活動である。

【図3】は、再構成活動について示したものであり、【表2】は再構成活動の目的・内容・方法について整理したものである。

【図3：再構成活動について】



【表2：再構成活動の目的・内容・方法】

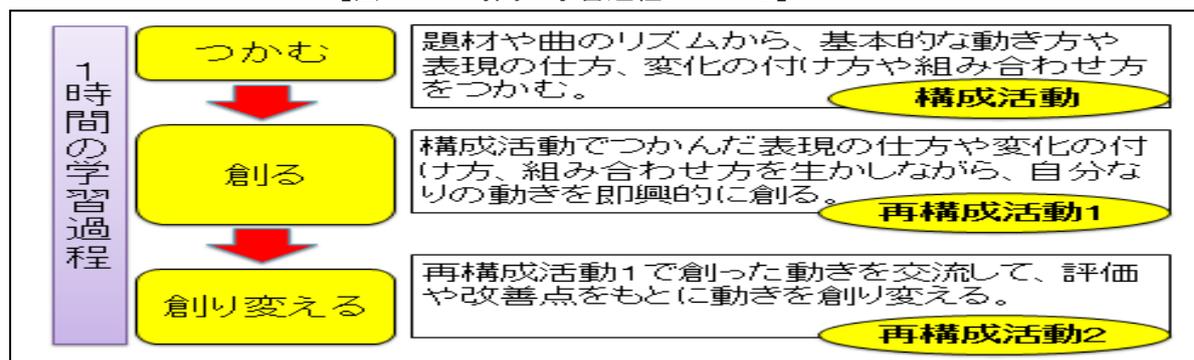
	構成活動	再構成活動1	再構成活動2
目的	・題材や曲に適した基本的な体の動き方や表現の仕方、変化の付け方や組み合わせ方をつかむ。	・構成活動で身に付けた動き方や表現の仕方をもとに、動きを即興的に創るため。	・仲間からの評価や改善点を参考に動きを創り変えるため。
内容	・表したいイメージやリズムの特徴をとらえる。	・表したいイメージやリズムの特徴をとらえ、動きに変化を付けたり、新しい動きを考えたりする。	・ペアやグループで互いの動きや表現を見せ合って交流する。 ・動きを組み合わせたり、繰り返したりしてまとまりをつける。
方法	・映像や写真で動きや表現を見る。 ・教師の動きを模倣する。 ・簡単な動きで段階的に繰り返す。	・ペア活動を中心に、相手を変えて踊る。 ・動きに変化を付けるポイントの掲示	・グループ活動での創作、発表を行う。 ・評価や改善点をふせんに書いて交換したり、話し合ったりする。

(2) 「再構成活動を位置付けた学習過程」について

「再構成活動を位置付けた学習過程」とは、学習目標を達成するために、1時間の学習において、明確な課題を設定し、基本的な動き方や表現の仕方の見通しをつかむ「つかむ」段階に構成活動、見通しをもとに自分の動きを創り出していく「創る」段階に再構成活動1、さらに、動きを量的に拡大、質的に深化させていく「創り変える」段階に再構成活動2を位置付け、学習を展開していくことである。

【図4】は、再構成活動を位置付けた学習過程について示したものである。

【図4：1時間の学習過程について】



III 研究の目標

再構成活動を位置付けた学習過程を通して、表現する楽しさを味わう生徒を育てるダンス領域の学習指導の在り方を究明する。

IV 研究の仮説

ダンス領域の学習指導において、再構成活動を位置付けた学習過程を、次の3つの視点から具体化すれば、身体表現力や構成力が高まり、イメージやリズムの世界に没入して踊る楽しさや仲間と交流して踊る楽しさを味わう生徒を育むことができるであろう。

視点1：再構成活動を位置付けた単元構成の工夫

視点2：生徒の実態やダンスの特性に即した教材化の工夫

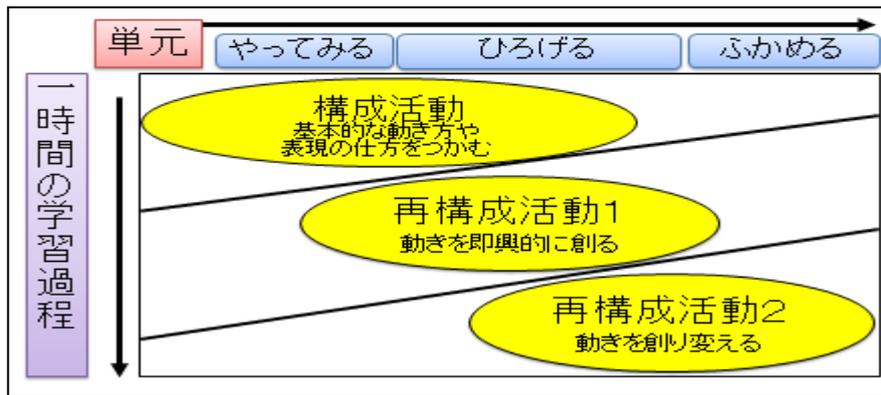
視点3：再構成活動を活発にする具体的支援の工夫

V 研究の具体的構想

1 再構成活動を位置付けた単元構成の工夫

単元の前半で基本的な動き方や表現の仕方を十分につかむことをねらい、単元の後半では、生徒が自ら取り組み、互いに動きを見せ合って交流しながら、動きを創り変えていくことができるように構想した。そのために、次頁の【図5】に示すように、単元全体を「やってみる」「ひろげる」「ふかめる」の3つの段階で構成し、「やってみる」の段階で構成活動、「ひろげる」の段階で再構成活動1、「ふかめる」の段階で再構成活動2を重点的に位置付け、その学習内容に応じて、学習を展開していく。また、単元が進むにつれて、再構成活動2の学習時間の配分が多くなっていくように構成する。

【図5：再構成活動を位置付けた単元構成について】



2 生徒の実態やダンスの特性に即した教材化の工夫

運動のもつ3つの特性である「機能的特性」「構造的特性」「効果的特性」に加え、生徒の実態を把握して、以下の3つの視点から取り上げる教材を選定する。

- 習得されるべき内容やよさが内包され、目的を明確にして踊ったり、表現したりできること。【価値性】
- 自分が表したいイメージやとらえたリズムの特徴に応じて、動きや表現を考え、工夫して踊ったり表現したりできること。【発展性】
- 今もっている力や動きを高めて、踊ったり表現したりして楽しむことができること。【活動性】

3 再構成活動を活発にする具体的支援の工夫

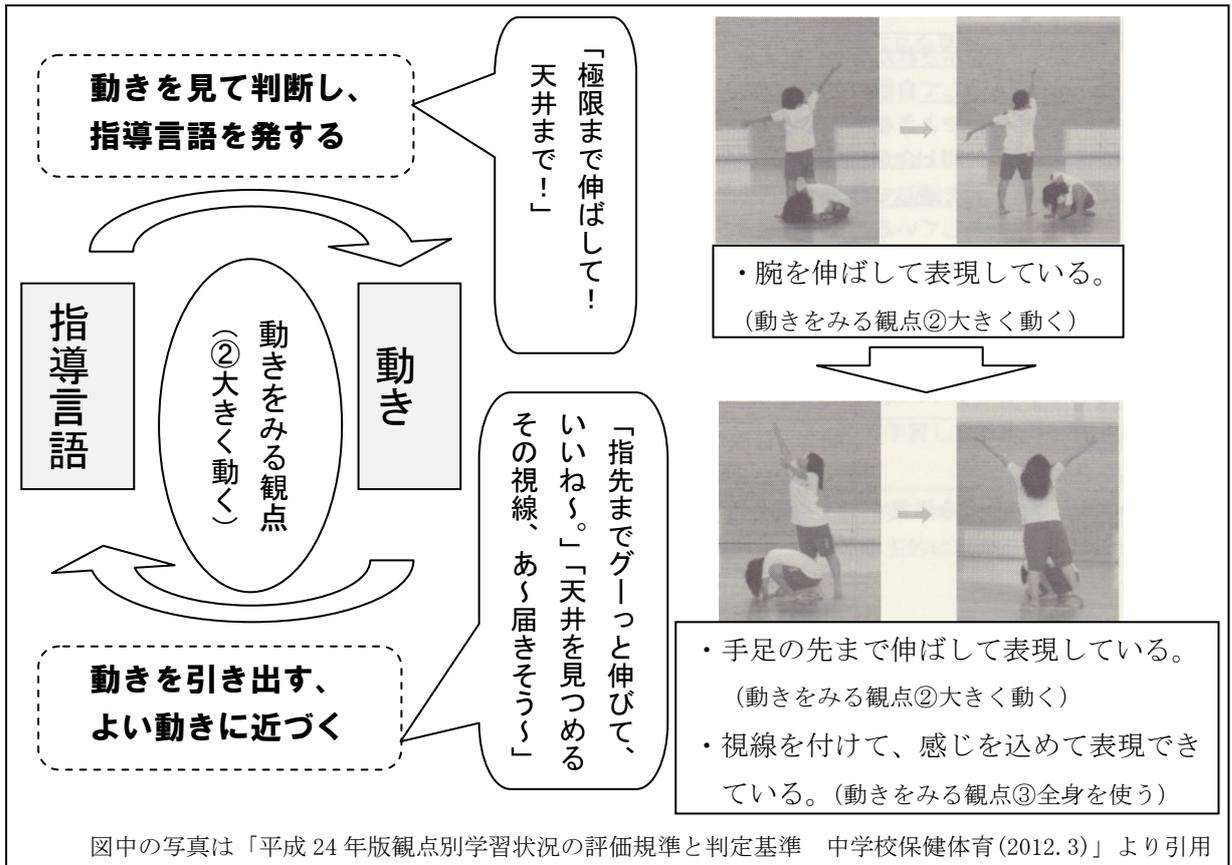
(1) 指導言語の工夫

指導言語とは、生徒がとらえているイメージや動きの内容を変化させ、よりよい動きを引き出すための、教師からの言葉かけである。生徒の動きを見た時に、さらに「よい動き」を引き出すために、どのような言葉で生徒に助言していくかを工夫することにより、生徒の即興的な表現が変化していくと考える。動きをみる観点については、山崎・村田・朴(2014)の先行研究を参考に、【表3】に指導言語の具体例を、次頁の【図6】に指導言語を発する過程の具体例を示す。

【表3：指導言語の具体例】

動きをみる観点	指導言語の具体例
①動きの質感	「強くても弱くてもだめ、加減が大事」「フワーン」
②大きく動く	「極限まで伸ばして、天井に届くまで」
③全身を使う	「からだの全細胞を動かす」
④空間の変化	「2人の距離が遠いときとすごく近いときもあるね」
⑤時間の変化	「もっと早く、もっと素早く」「もっとゆっくり」
⑥力の変化	「もっと強く、もっと弱く」「ギュッ」
⑦動きの連続	「3回繰り返してみよう。面白い動きを3回！」
⑧動きの種類	「投げたりとか移動とか跳ぶとか、もっとアクティブに」
⑨個性的な動き	「誰もがダンサー！」「世界中で1番上手！」
⑩なりきる	「手は翼、翼に見えるよ」

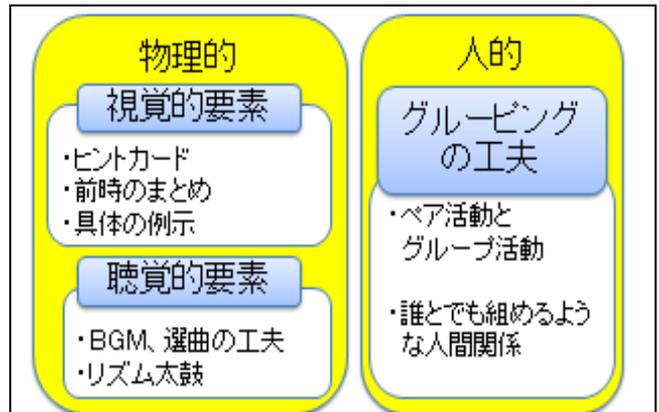
【図6：指導言語を発する過程の具体例（伸びる－縮む）】



(2) 学習環境の工夫

ダンス領域の学習における学習環境について村田(1998)は、「音楽、施設・用具といった物理的な側面と、教師と生徒、生徒と生徒、といった人間関係の側面とに分けられる。」としている。これを参考に、本研究では、【図7】のように、視覚的要素、聴覚的要素からの物理的側面と、仲間や教師とのかかわりからの人的側面から、学習環境を整え、仲間とのかかわりを深めるために、それをどのように設定するかを考える。つまり、学習環境の工夫とは、再構成活動を活発にするために、物理的側面、人的側面から学習の環境を工夫することである。

【図7：学習環境の工夫】



○物理的側面

視覚的要素

題材や曲からイメージやリズムをとらえやすくしたり、体を動かしたくなるように意欲を高めたり、表現することの恥ずかしさを軽減したりするような図を掲示する。

例	ヒントカード（4つのくずし）	前時のまとめ	具体の例示
目的	・動きに変化を付けることができるように変化のポイントを意識させるため。	・前時の自分の表現や動きを写真や映像で確認したり、本時の学習に生かし、表現や動きを高めたりするため。	・表現の仕方や動き方が分からない生徒が理解できるようにするため ・イメージをつかみやすくするため
図	<p>空間(場) 方向や場の使い方の 変化、人のいない場へ</p> <p>体(状態) ねじり回ったりとんだり 極限の動きが非日常</p> <p>リズム 素早くゆくり急に止め メリハリのある動き</p> <p>人間関係 離れたりくっつきたり の動きなど、1人でできる 動きが立体的に</p>		

聴覚的要素

生徒に親しまれている曲や題材から、イメージをとらえやすかったり、リズムの特徴がはっきりして、リズムをとらえやすい曲を選曲する。また、授業前にもBGMとして常にその授業のテーマに合った曲を流し、生徒の興味・関心を高める。

	リズムや題材	使用する曲名/歌手名または「CD名」	曲の特徴	BPM
現代的なリズムのダンス	オリエンテーション ／導入	きらきらキラー／きゃりーぱみゅぱみゅ NO MORE CRY／D-51 ロコローション／オレンジレンジ	○軽快で、楽しい曲。生徒が親しみやすい。 ○ゆっくりとしたテンポでリズムが取りやすい。	80 134 69
	ロック	アゲハ蝶／ボルノグラフィティ ゲラゲラポー／キングクリームソーダ Follow Me／E-Girls Candysmile／E-Girls Gangnam Style／PSY NIPPON／椎名林檎 Happiness／嵐 勝利の笑みを君と／ウカスカジー	○軽快で、弾む感じの曲。 ○曲の途中でリズムが変わるので、動きにも変化を付けやすい。 ○体育会で使用した曲で、リズムをとりにやすい。 ○思わず口ずさみながら体が動く曲。 ○勢いがある、ビートがはっきりしている曲。 ○サビの部分に弾む感じがある曲。	116 120 143 147 132 170 113 140
	ヒップホップ	15夜さんのもちつき／童謡 あんたがたどこさ／童謡 ノート／「ダンスミュージック 100%」現代的なリズムのダンスより Candy Shop／50cent	○口伴奏で歌いながら、縦ノリのリズムがつかみやすい曲。 ○ゆっくりとしたテンポで、縦ノリのリズムがつかみやすい曲。 ○洋楽で、ヒップホップの雰囲気を感じられる曲。	(口 伴奏) 95 67
	サンバ	リズム・デ・サンバ／「表現運動・ダンスCD 2」 ケツメンサンバ／ケツメイシ ボラーレ／ジプシーキングス マツケンサンバ／松平健	○サンバのリズムが単調に繰り返されていてステップの練習に効果的。 ○歌詞はラップ調だが、サンバのリズムがつかみやすい。 ○CM等で耳慣れている曲。基本ステップを習得後は変化をつけやすい。 ○サンバのリズムがつかみやすく、サビのポーズを楽しむことができる。	122 108 118 126

		風になりたい／THE BOOM	○心地よい曲調で、リズムがつかみやすい。様々な動きの変化もできる。	113
創作ダンス	導入	Vol. 6 Ardas～祈り～／クリムゾンコレクション	○ヒーリング系の曲。体ほぐしやストレッチなどに効果的。	34
	リエンテーション	D'abordD'abord／Rachid Taha エトピリカ／「情熱大陸」より	○テンポの速いリズムカルな曲。	129
			○ゆったりとしてリラックスできる。	88
	走る－跳ぶ －転がる	Jump／Van Halen Rhythm and Police／「踊る大捜査線」 Pump／「Taxi」	○ビートの強いロックで、開放感のある曲。	129
			○TVでよく知られていて、逃走シーンなど緊迫感やスピード感がある。 ○小刻みなリズムをベースに次第に盛り上がっていく曲調。	136 86
	スポーツ	Eye of the Tiger／「ロッキーのテーマ」 熱くなれ／大黒摩季	○ボクシングの雰囲気を感じられる。	113
			○アトランタオリンピックのテーマ曲。強いビート、スピード感がある	140
	新聞紙	アゲハ蝶／ボルノグラフィ 5, 6, 7, 8／Steps D'abordD'abord／Rachid Taha Scatman's World／Scatman	○軽快で、弾む感じの曲。	116
			○アップテンポで、明るい感じの曲。	140
			○テンポの速いリズムカルな曲。	129
○テンポが速く、スピードのある曲。			147	
身近なもの	秋の色ほか数曲／「ダンスミュージック 100%」 創作ダンス（I）より	○静かな曲、リズムのはっきりした曲、テンポが速い曲など、曲調の違う曲を選択する。		
集まる－と び散る	おもちゃのマーチほか数曲／「ダンスミュージック 100%」 創作ダンス（I）より	○明るくて、テンポが速い曲や、曲の途中でリズムの変化がある曲を選択する。		

○人的側面

グルーピングの工夫

○全員（一斉）で

- ・動きを見せ合ったり、一緒に表現したりすることで、まとまりや一体感を感じる。
- ・うまく踊れなかったりしても、集団の中で目立つことなく、失敗や不安、恥ずかしさが軽減される。

○ペア活動

- ・一時間の授業の中で、ペアを替えて表現することで、自分や仲間の新しい動きや表現に気付くことができる。
- ・毎時間の授業で、常に新しい仲間とペアを組むことで、新しい動きや表現に気付くとともに、互いに認め合う態度を身に付けることができる。

○グループ活動

- ・踊ることが苦手だったり、イメージをとらえることが難しかったりする生徒が、仲間と協力したり、助けてもらったりして学習に取り組むことができる。
- ・仲間で意見を出し合ったり、協力して創作したりすることで、表現することを楽しむことができる。
- ・個人やペア活動での動きや表現をより高めることができる。

(3) ICT活用の工夫

【図8】のタブレット端末を使用し、カメラ機能を用いて生徒の動きを撮影する。自分たちの動きをその場で確認することができ、スクリーンに投影することで、自分や仲間の動きのよさに気付いたりすることができる。さらに、映像や写真で記録しておくことにより評価活動にも役立てることができる。

【図8：IOSタブレット】



引用：www.apple.com

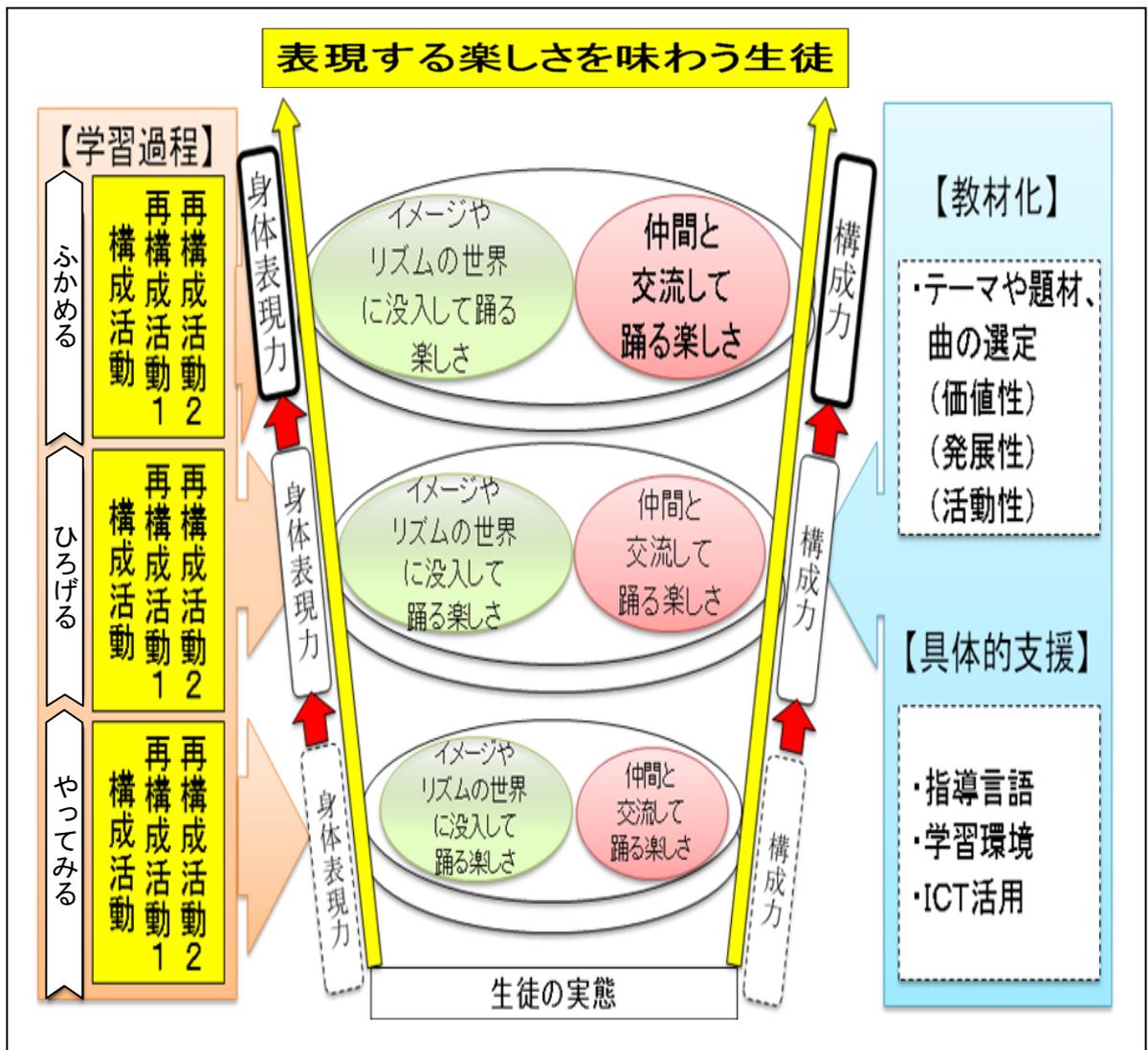
【図9：ワイヤレススピーカー】

【図9】は、Bluetooth機能対応のスピーカーで、スマートフォンからの遠隔操作ができる。選曲操作が簡単で、生徒の動きや表現に合わせて音量の調節やフェードアウトなど移動しながらの操作が可能で、テーマやリズムに合った雰囲気を作ったり、生徒が踊りやすい環境を整えたりすることができる。



引用：www.sony.jp

4 研究構想図



5 検証のねらいと方途

(1) ねらい

仮説に基づく検証授業により資料を収集し、結果の分析により仮説を検証する。

(2) 対象

嘉麻市立稲築東中学校 第2学年1組2組3組 30名（女子30名）

(3) 期間

第1次 平成26年 9月17日（水）～10月24日（金）

6時間 ダンス（現代的なリズムのダンス）

第2次 平成26年11月 7日（金）～12月11日（木）

8時間 ダンス（創作ダンス）

(4) 内容と方法

研究仮説を検証するために、学習指導計画に従って「ダンス」領域の授業と事前・事後調査を実施し、データを収集する。

【内容】

再構成活動を位置付けた学習過程により、生徒たちが表現する楽しさを味わうことができたか。

【方法】

○事前・事後のアンケートによる調査

<事前>①ダンスに関する事前調査

②診断的授業評価

<事後>①総括的授業評価（形成的授業評価も含む）

②ダンスの授業に関する事後調査

○学習の様相観察

○学習ノートの記述

ワークシートによる自己評価、相互評価の記述分析

仲間に関する調査（授業評価尺度）

教師の指導言語（逐語記録と生徒の動きの変容分析）

VI 研究の実際と考察

【実証例1】ダンス 現代的なリズムのダンス(平成26年10月～11月 第2学年1組2組3組にて)

1 単元 第2学年 「ダンス 現代的なリズムのダンス」

2 目標

- (1) リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。(技能)
- (2) ダンスに積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどができるようにする。(関心・意欲・態度)
- (3) ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

3 計画(6時間)

- (1) オリエンテーションで学習の見通しを持たせ、現代的なリズムのダンスの特性を知るとともに、簡単な動きでリズムをつかませる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (2) ロックやヒップホップなどのリズムに乗って、全身で弾んで楽しく踊らせる。・・・・・・4
・ロック②、ヒップホップ①、サンバ①
- (3) 自ら選択したリズムごとにグループになり、動きを組み合わせ、まとまりをつけて、発表会を行わせる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

4 本単元指導の立場

(1) 本単元における再構成活動について

	構成活動	再構成活動1	再構成活動2
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに乗って全身で自由に弾みながら踊る表現の仕方があることを理解するため。 ・リズムの特徴をとらえ、基本的な体の動き方を身に付けるため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化のある動きを組み合わせ、即興的に踊るため。 ・誰とでも楽しく取り組めるようにするため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間のよさを認め合う態度を身に付けるため。 ・動きを見せ合って、評価や改善点を交流するため。 ・評価や改善点をもとに、動きを創り変えるため。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体の各部位でリズムをとること。 ・体幹部を中心に全身で弾んで動くこと。(ロック) ・体全体を上下に動かしてリズムをとり、縦ノリで動くこと。(ヒップホップ) ・「ウンタッタ」のリズムで体幹部を中心に前後にスイングして動くこと。(サンバ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲からリズムの特徴をとらえること。 ・リズムに乗って自由に踊ったり新しい動きを創ったりすること。 ・仲間の動きのよさを見付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の最後にペアやグループで互いに見せ合って交流すること。 ・今できる簡単な動きを組み合わせたり、繰り返したりしてまとまりをつけること。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ・映像や写真で動きを見る。 ・教師の動きを模倣する。 ・簡単な動きで段階的に繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動を中心に、毎時間や1曲の中でも相手を変えて踊る。 ・慣れてきたら、ペアやグループの人数を変えて踊る。 ・よい動きを見る視点や変化の付け方を示した表を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価や改善点をふせんに書いて交換したり、話し合ったりする。 ・メドレー形式やバトル形式での発表を行う。

(2) 本單元における教材化の工夫について

現代的なリズムのダンスでは、音楽やリズムによって踊ることが誘発され、「どの曲で踊るのか」「どのリズムで踊るのか」ということは、生徒が表現する楽しさを味わう上でも大きな要因の一つである。そこで、本單元では、以下の3つの視点から取り上げる曲を選定し、教材化を図った。

	曲名	価値性	発展性	活動性
軽快なロック	Follow Me ／E-Girls Candysmile ／E-Girls	リズムが取りやすく、スキップができるやや速めの曲で、スキップで弾む動きを身に付けることができる。	曲の途中で、ペアの相手を変えながら、相手の新しい動きを見出したり、自分で新しい動きを創ったりしていくことができる。	体育会で使用するなど生徒の関心の高い曲で、仲間とペアやグループになって踊ったりして、楽しむことができる。
ビートの強いロック	Gangnam Style ／PSY NIPPON／椎名林檎 Happiness／嵐 勝利の笑みを君と／ ウカスカジー	ビートがはっきりしていて、リズムが取りやすく、やや速めの曲で、全身で弾む動きを身に付けることができる。	曲の途中で、ペアの相手を変えながら、相手の新しい動きを見出したり、自分で新しい動きを創ったりしていくことができる。	サッカーワールドカップに関連した曲で、生徒の関心も高く、仲間とペアやグループになって踊って、楽しむことができる。
ヒップホップ	15夜さんのもちつき あんたがたどこさ ノート Candy Shop ／50cent	口伴奏で声に出して歌いながら、段階的にアップダウンのリズムで体幹部の重心を上下に移動させる縦ノリの動きを身に付けることができる。	ペアで向かい合ってアップダウンのリズムを確認し合うように動きながら、動きをかけ合ったり、即興的に新しい動きを創ったりしていくことができる。	ペアやグループ同士で向かい合い、交互に前後に進んだり、動きをかけ合ったりしてバトルを楽しむことができる。
サンバ	リズムでサンバ マツケンサンバ ／松平健 風になりたい ／THE BOOM	サンバのリズムが単調に繰り返されている曲で、「ウンタッタ」のリズムで体幹部を中心に前後にスイングさせる動きを身に付けることができる。	サンバステップに加えて、ボックスステップやターンなど変化をつけたり、動きを創ったりしていくことができる。	ペアやグループで、列になって踊ったり、輪になって踊ったり、お互いの動きを確認し合いながら、楽しむことができる。

(3) 本單元における具体的支援の工夫について

○学習環境の工夫

現代的なリズムのダンスでは、リズムに乗って全身で自由に踊るために、学習環境の雰囲気づくりが大切だと考える。そこで、本單元では以下のように、物理的側面、人的側面の2つの側面から学習環境の工夫を図った。

(教…曲名、物…物理的側面、人…人的側面)

時	テーマ		構成活動	再構成活動1	再構成活動2
1	オリエンテーション	教	NO MORE CRY	NO MORE CRY	/
		物	みんなでダンス入賞作品視聴、具体の例示 (8844221111)		
		人	全員で	教師のリードで	

2	軽快なロック	教	Follow Me	Candy smile	Follow Me Candy smile
		物	リズム太鼓を使って	リズム太鼓を使って	リズム太鼓を使って
		人	・教師のリードで ・ペア活動	ペア活動	グループ活動(ペアを 組み合わせて)
3	ビートの強いロック	教	Gangnam Style	NIPPON、Happiness	勝利の笑みを君と
		物	リズム太鼓を使って	リズム太鼓を使って	リズム太鼓を使って
		人	・教師のリードで ・ペア活動	ペア活動	グループ活動
4	ヒップホップ	教	15夜さんのもちつき	あんたがたどこさ、ノート	Candy Shop
		物	具体の例示(歌詞とアップダウンのリズム)	具体の例示(歌詞とアップダウンのリズム)	
		人	・教師のリードで ・ペア活動	ペア活動(あんたがたどこさ)	グループ活動
5	サンバ	教	リズムでサンバ	マツケンサンバ、ボラーレ	風になりたい
		物	具体の例示(ウンタッタのリズム)	具体の例示(ウンタッタのリズム)	
		人	・教師のリードで ・全員で	・ペア活動 ・グループ活動	大きなグループで
単元全体		物聴	キャッチフレーズの掲示、ヒントカードの掲示、前時のまとめ 授業前のBGM、Bluetooth対応スピーカーの活用		

5 学習指導の実際と考察

やってみる段階 (1/6)

ねらい

ダンスの学習の進め方や授業の約束事を確認し、見通しをもつことができるようにする。また、現代的なリズムのダンスの特徴や軽快なリズムをとらえて全身を使った表現の仕方があることを理解したり、基本的な体の動き方を身に付けたりすることができるようにする。

生徒の活動の様子と教師の支援

まず、単元の導入としてオリエンテーションを行い、学習カードをもとに映像や写真を使って、学習の進め方や授業の約束事を確認した。次に、構成活動では、参考作品のDVDを鑑賞したことで、全身を使った表現の仕方があることを理解し、学習の最後の姿をイメージすることができた【資料1】。

さらに、次頁【資料2】に示すように、段階的に簡単な動きでリズムを取ることを通して、次頁【資料3】の感想のように「もっとリズムにのれるようになりたい」、「サンバ、ロック、ヒップホップのダンスをがんばりたい」と、これからの学習に対する意欲が高まっている様子うかがえる。また、次頁【資料4】の感想のように、参考作品を鑑賞したことで、「跳んだり走ったり手先までダンスを表現している」と、全身を使った表現の仕方を理解したり、「基本的なことからやったのでよく学べました」と、リズムの特徴をとらえ基本的な体の動き方を身に付けたりしている様子うかがえる。

【資料1：作品を鑑賞する生徒】



【資料2：段階的に簡単な動きでリズムをつかむ生徒】



【資料3：授業後の生徒の感想】

手をたたいただけでもリズムを取りながらすると、みずかしい事が分かりまし
た。次からはもっとリズムにのれるようになりたいと思いました。

今日は「884422111」のリズムで、手拍子をしてから跳って楽しかったです。
ダンスの、リズム、ステップのダンスが楽しかったです。

【資料4：授業後の生徒の感想】

跳んだり、走ったり、手先まじりダンスを表現している

とても楽しかったです。今までのダンスと違って、基本的なことから
やったのでよく学びました。ありがとうございました!!! 😊

考察

○ 構成活動を位置付け、映像や写真で学習の進め方を確認させたり、参考作品を鑑賞させたりしたことは、単元の見通しをもたせ、全身を使った表現の仕方があることを理解させていく上で有効であった。また、教師のリードで、段階的に体全体を動かして、リズムの特徴をとらえさせたことは、リズムに乗って踊ることの楽しさを実感させていく上で有効であった。

ひろげる段階 (2/6～5/6)

ねらい

ロック、ヒップホップ、サンバのリズムの特徴をとらえ、それぞれのリズムに合った基本的な動き方を身に付けたり、変化のある動きを組み合わせることで即興的に踊ったりすることができるようにする。

生徒の活動の様子と教師の支援

ここでは、サンバの学習活動を中心に述べる。

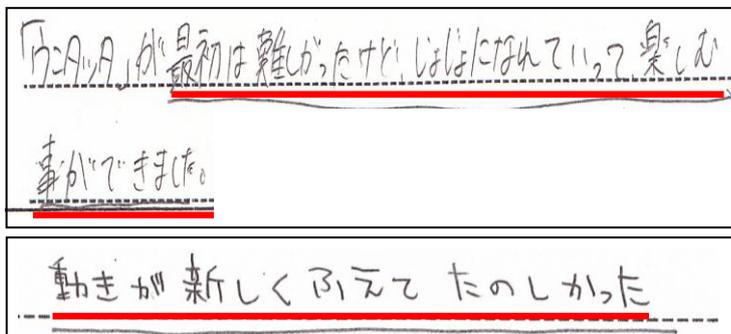
まず、構成活動では、次頁【資料5】のようにサンバの基本的なステップを「ウンタッタ」のリズムに合わせて、教師の動きを模倣しながら踊った。また、腰を前後にスイングさせる動きの他にも、腰を捻ったり、その場でターンしたりして動きを増やしながら、教師がリードをして踊らせた。

このように、リズムに合った基本的な動き方や変化の付け方を段階的に身に付けさせていくことで、【資料6】の感想のように、徐々にサンバのリズムの特徴をとらえて踊ることができるようになった生徒の姿がうかがえる。

【資料5：ステップを身に付ける構成活動】



【資料6：授業後の生徒の感想】

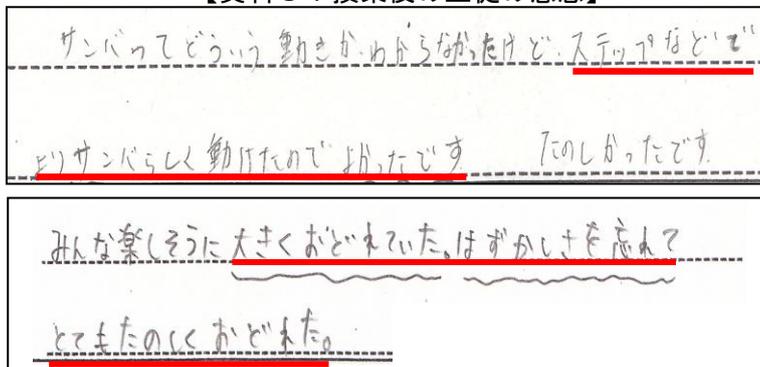


次に、再構成活動1では、構成活動で身に付けた動きをもとに、【資料7】のように、ペアになって互いの動きを模倣しながら、即興的に動きを創ったりしていった。恥ずかしくて、自分では全身を使って踊れない生徒も、いろいろな仲間とペアになって相手の動きを観ることで、【資料8】の感想のように、よりサンバラしく動けたり、少しずつ仲間のよい動きを見付けながら、サンバのステップを組み合わせたりすることができたと考える。また、「はずかしさを忘れてとてもたのしくおどれた」と、サンバのリズムにひたり、恥ずかしがらずに夢中で踊る楽しさを実感することができた様子うかがえる。

【資料7：再構成活動1】

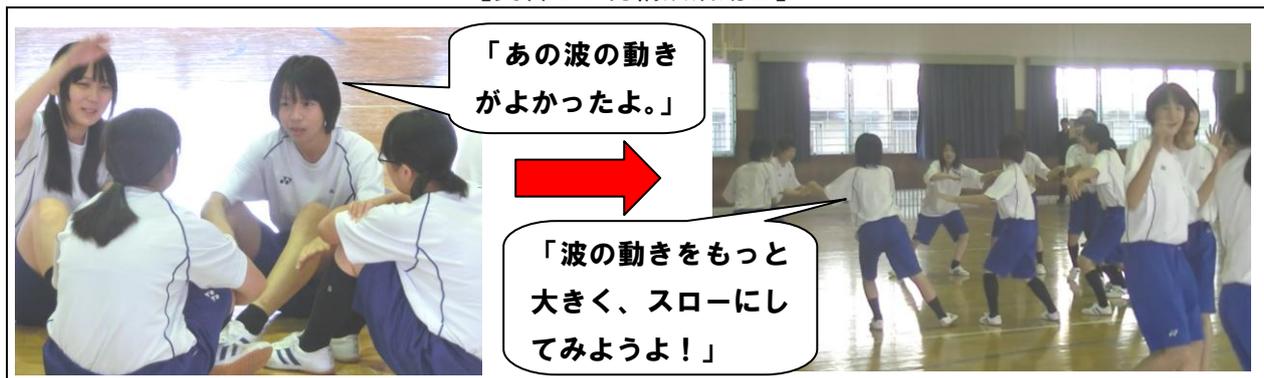


【資料8：授業後の生徒の感想】

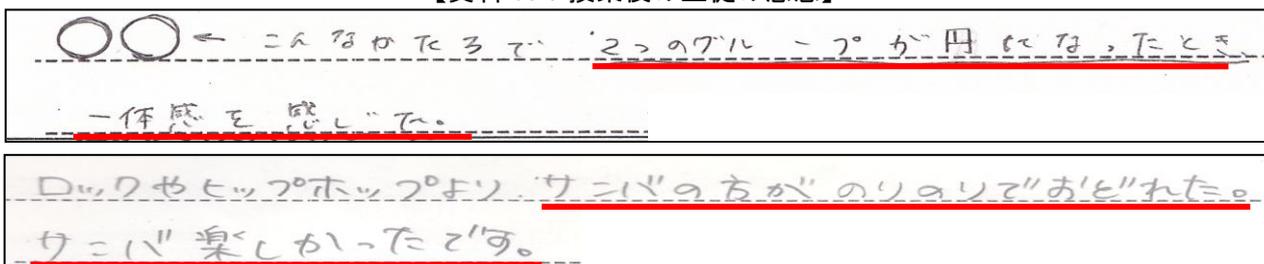


そして、再構成活動2では、次頁【資料9】のように、再構成活動1で創った動きを見せ合い、評価や改善点を交流した。さらに、仲間からの評価をもとに、変化を付けて動きを創り変えていった。最初は、「おもしろかった。」「かわいい！」などのような感想が多かったが、互いのよい動きを見る視点を掲示し、全体で確認しながら交流させることで、徐々に生徒同士で具体的な評価や改善点を話し合うことができるようになった。そして、次頁【資料10】の感想のように、「一体感を感じる」など仲間と交流して踊る楽しさや、「のりのりで踊れた」とサンバのリズムにひたり、夢中で踊る楽しさを実感することができた様子うかがえる。

【資料9：再構成活動2】



【資料10：授業後の生徒の感想】



考察

- 構成活動を位置付け、教師と一緒に踊ったり、基本的な動き方を模倣させたりしたことは、リズムに合った基本的な動き方を身に付けて踊ることができ、身体表現力を高める上で有効であった。
- 再構成活動1を位置付け、ペアを変えながら即興的に踊ったことは、多くの仲間とかかわりながら相手のよい動きを見付けることができ、恥ずかしがらずに踊る楽しさを実感する上で有効であった。
- 再構成活動2を位置付け、評価や改善点を交流しながら動きを創り変えて踊ったことは、仲間の動きのよさを認め合うことができ、仲間と交流して踊る楽しさを実感する上で有効であった。

ふかめる段階 (6 / 6)

ねらい

変化のある動きを組み合わせ、まとまりをつけて踊ることができるようにする。

生徒の活動の様子と教師の支援

まず、既習のロック、ヒップホップ、サンバの中から自分の興味や関心に合ったテーマを選び、それぞれのグループに分かれた。そして、リズムの特徴をとらえた変化のある動きを組み合わせ、まとまりをつけた作品にして踊ることができるように、これまでの学習の様子を映像で振り返り【資料11】、リズムの特徴をつかませ、動きのポイントを示した図を掲示した。

再構成活動1では、前回までの授業で身に付けた動きをもとに、新しい動きを自分たちで創り、簡単な作品にまとめていった。また、発表会に向けて、見ている人にも伝わるように、隊形を工夫するなど、ヒントカードを意識するようにさせた。

【資料11：映像による振り返り】



また、【資料 12・13・14】は発表会でのサンバを選択したグループの様子である。これらの資料から、再構成活動 1 では、円になって互いの顔を見ながら踊っていたのに対し、再構成活動 2 では、他のグループからの評価や改善点を参考に、隊形を変えてカノン（動きをずらす）に工夫して、動きを創り変えて踊っていることを見取ることができる。

【資料 12：再構成活動 1】 【資料 13：再構成活動 2】 【資料 14：動きを創り変えた後の作品】



このように、再構成活動 1 と再構成活動 2 を経て、踊りを見せ合い、仲間と評価や改善点を交流することで、自分たちの動きの課題に気付くことができたと考える。そして、さらに動きを工夫して創り変えることで、【資料 15】の感想のように、「いい表現ができた!」と身体表現力の高まりや、「息が上がるほど」リズムにのって夢中で踊る生徒の姿や、【資料 16】の感想のように、「みんなとの絆がふかまった」と、仲間と交流して踊る生徒の姿がうかがえる。

【資料 15：授業後の生徒の感想】

いつもの恥ずかしさがなくて、楽しかった。グループで
考えていい表現ができた!

息が上がるほど、おどって楽しかったです。

【資料 16：授業後の生徒の感想】

恥ずかしかったけどとても楽しかったです。みんなとの
絆がふかまったよなまがしたのダンスはすこいなと思った。

考察

- 再構成活動 1 を位置付け、これまでの既習経験をもとに、新しい動きを即興的に創って動きを組み合わせたり、空間の変化を付けたりしたことは、まとまりをつけた簡単な作品にして踊ることができ、身体表現力を高める上で有効であった。
- 再構成活動 2 を位置付け、グループごとに作品を見せ合い、互いにより動きや改善点を交流し、それをもとに動きを創り変えたことは、リズムに没入して踊る楽しさや仲間と交流して踊る楽しさを実感する上で有効であった。

6 全体考察

(1) 成果について

①再構成活動を位置付けた単元構成の工夫

「やってみる」段階、「ひろげる」段階、「ふかめる」段階の3つの段階に分け、各段階で資質や能力を高めていったことで、表現する楽しさを味わう生徒を育てることができた。

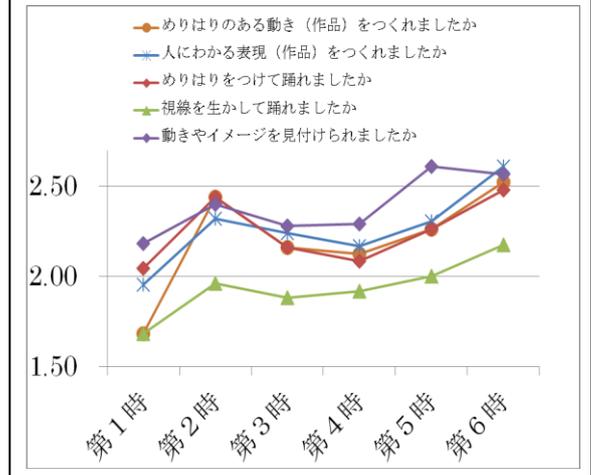
その根拠として、【資料17】から、形成的授業評価（おどる・つくる）が、単元を通して上昇していることが挙げられる。これは、変化を付けて踊れるようになった身体表現力やリズムの特徴をとらえた動きを創り出した構成力が徐々に高まっていることの表れであると考えられる。

また、構成活動で身に付けた動きをもとに、ペアを変えながら踊ったり、グループになって即興的に動きを創って踊ったりする再構成活動1を位置付けたことは、仲間のよい動きや表現を見付けながら仲間と一緒に踊ることを楽しむことにつながり、仲間と交流して踊る楽しさを実感させる上で有効であった。

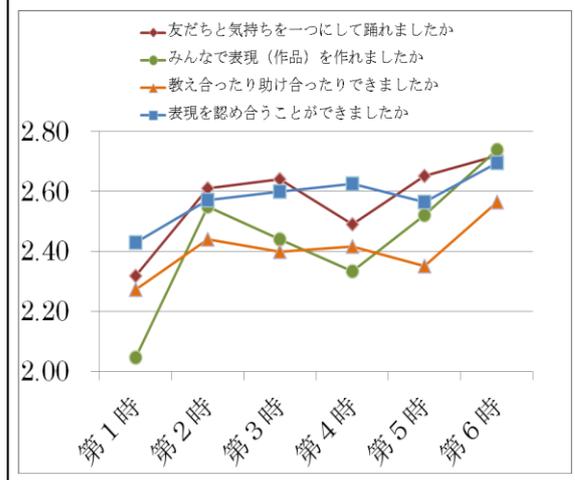
さらに、互いの動きを見せ合って、評価や改善点をもとに、動きを創り変える再構成活動2を位置付けたことは、互いに認め合い、仲間と交流して踊る楽しさを実感させる上で有効であった。

これらの根拠として、【資料18】から、形成的授業評価（かかわる）が、単元を通して上昇していることが挙げられる。これは、仲間と認め合って協力しながら踊ることができ、仲間と交流して踊る楽しさが徐々に実感できたことがうかがえる。

【資料17：形成的授業評価（おどる・つくる）の推移】



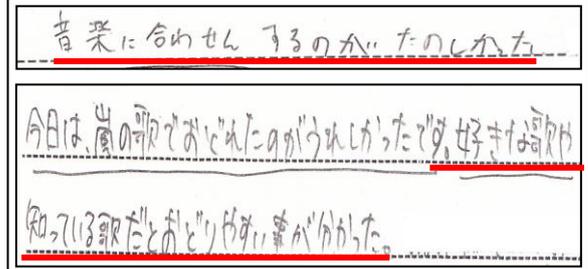
【資料18：形成的授業評価（かかわる）の推移】



②生徒の実態やダンスの特性に即した教材化の工夫について

軽快なロック、ビートの強いロック、ヒップホップ、サンバを取り上げ、3つの視点（価値性・発展性・活動性）から曲を選定したことは、生徒が表現する楽しさを味わう上で、有効であったと考える。その根拠として、【資料19】のような感想の記述が見られたことが挙げられる。「知っている歌だと踊りやすい」

【資料19：授業後の生徒の感想】



という感想のように、教材化の工夫によって、リズムの特徴をとらえやすくなり、リズムに乗って全身で踊ることにもつながっていったことがうかがえる。

③再構成活動を活発にする具体的支援の工夫について

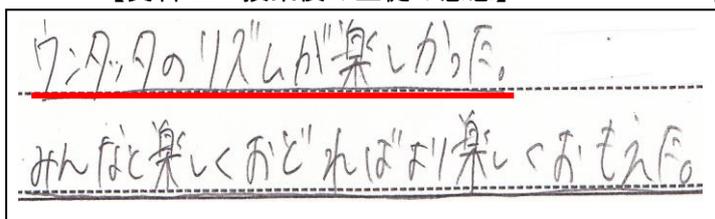
リズム太鼓を使ったり、リズムに合わせて「ウンタッタ」などの声をかけたりしながら教師と一緒に踊ったことは、【資料 20】の感想の記述にあるように、リズムの特徴をとらえたり、体幹部を中心に全身で踊ったりする上で有効であった。

また、変化をつけた動きのポイントを把握する資料を掲示したことは、【資料 21】の感想の記述にあるように、よい動きを理解したり、変化の付け方を理解したりする上で有効であった。

さらに、タブレット端末を使って写真や映像を撮り、自分の踊りを視覚的に把握させたことは、自分の踊っている動きのよさや楽しさを実感させる上で有効であった。

加えて、前時の学習における仲間からの評価や感想、写真を視覚的に把握させたことは、【資料 22】のように、よい動きを見付けたり、仲間の動きを見て新しい動きを創りだそうとする構成力を高めたりする上で有効であった。

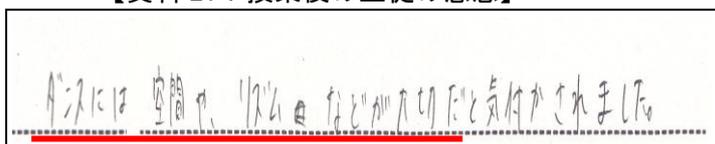
【資料 20：授業後の生徒の感想】



【資料 22：前時のまとめを確認する生徒】



【資料 21：授業後の生徒の感想】



(2) 課題・改善案について

- ビートの強いロックにおいて、再構成活動で曲を聞いて即興的に踊ることが難しく、動きが小さい生徒がいた。構成活動で例示した動きの数が多かったので、逆に自由に踊ることが難しかったと考える。そこで、シンプルに動きの種類は3～5種類にして踊らせるとよいと考える。そうすることで、同じ動きでも繰り返したり、スローモーションにしたり、空間を移動しながら踊ったりして、生徒から新しい動きを引き出せると考えられる。
- ヒップホップにおいて、曲のリズムに乗って縦ノリの動きができずに、途中で止まってしまう生徒がいた。そこで、構成活動からゆっくりとしたテンポの曲を使ってリズムをつかませるとよいと考える。そうすることで、曲から次第にリズムをつかむことができると考えられる。

【実証例 2】ダンス 創作ダンス（平成 26 年 10 月～11 月 第 2 学年 1 組 2 組 3 組にて）

1 単元 第 2 学年 「ダンス 創作ダンス」

2 目標

- (1) テーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けてひと流れの動きで即興的に表現したり、変化のあるひとままとまりの表現にしたりして踊ることができるようにする。(技能)
- (2) 創作ダンスに積極的に取り組むとともに、互いのよさを認め合おうとすること、仲間の学習を援助しようとするなどができるようにする。(関心・意欲・態度)
- (3) 創作ダンスの特性や表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

3 計画（8 時間）

- (1) オリエンテーションで学習の見通しを持たせ、創作ダンスの特性を知るとともに、即興的な表現の仕方をつかませる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 様々なテーマや題材からイメージをとらえ、変化を付けたひと流れの動きで即興的に表現して踊らせる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
・身近な生活や日常動作①、対極の動きの連続①、群の動き①、ものを使う②
- (3) 自ら選択したテーマごとにグループになり、変化と起伏のあるひとままとまりのある動きにして表現し、発表会を行わせる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

4 本単元指導の立場

(1) 本単元における再構成活動について

	構成活動	再構成活動 1	再構成活動 2
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマや題材から表したいイメージをとらえ、身体を使って表現する仕方があることを理解するため。 ・テーマや題材に適した体の動かし方を身に付けるため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きに変化を付けて即興的に表現するため。 ・だれとでも楽しく取り組めるようにするため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の表現のよさや違いを認め合う態度を身に付けるため。 ・評価や改善点をもとに、動きを創り変えるため。 ・変化のあるひとままとまりの表現にして踊るため。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「走るー跳ぶー転がる」… 変化とメリハリ（高低や速さ等）のある表現 ・「スポーツいろいろ」… 動きの誇張（大げさに）や連続（くり返し）、視線や表情をつけた表現 ・「新聞紙」…新聞紙になりきって、そのものの質感の表現 ・「身近な物」…物を何かに見立ててイメージをふくらませた表現 ・「集まるーとび散る」…群の使い方（個と群）や空間を大きく使った表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が表したいイメージをとらえ動きの誇張（大げさに）や連続（くり返し）、変化とメリハリ（高低や速さ等）、視線や表情をつけた動きで即興的に表現すること。 ・新聞紙から連想を広げてイメージを出し、思いついた動きを即興的に表現すること。 ・物を何かに見立ててイメージをふくらませ、思いついて動きを即興的に表現すること。 ・集まったり、分散したりして空間を大きく使って即興的に表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、表したいイメージのアイデアを出し合うこと。 ・イメージを共有し、グループごとに表現を見せ合うこと。 ・変化のあるひとままとまりの表現にして動きを創り変えること。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ・映像や写真で動きを見る。 ・教師が示した動きの例示を見る。 ・教師の動きを模倣する。 ・教師のリードで特徴的な動きを即興的に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動では毎時間相手を変える。 ・グループ活動では、リーダーを決めてリーダーの模倣をさせる。 ・変化やメリハリの付け方について掲示して、自分の動きをふり返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価や改善点をふせんに書いて交換したり、話し合ったりする。 ・創作記録シートに記述する。

(2) 本單元における教材化の工夫について

創作ダンスでは、多様なテーマから、動きや表現をイメージしやすいような題材を取り上げることにより、生徒の関心や意欲を高め、個の違いを生かした表現ができると考える。そこで、本單元では、以下の3つの視点から毎時間異なるテーマや題材を選定し、教材化を図った。

テーマ	題材	価値性	発展性	活動性
対極の動きの連続	走る－跳ぶ－転がる	高低や速さを強調して、メリハリのある動きや動きを連続したり、組み合わせたりしてひと流れの動きで表現することができる。	1つ1つは単調な動きでも、繰り返したり、組み合わせたりして、新しい表現を創っていくことができる。	動きがダイナミックで運動量もあり、思いきり体を動かして表現することを楽しむことができる。
身近な生活や日常動作	スポーツいろいろ	動きを誇張したり、速さの変化、表情や視線をつけたりして表現することができる。	特に印象的なシーンを取り上げることで、見る人に伝わるように大きな動きを工夫したり、変化を付けたりして表現を創っていくことができる。	一人一人のスポーツの経験を生かして取り組みやすく、知っている動きの特徴を表現したりして楽しむことができる。
もの(小道具)を使う	新聞紙	新聞紙を何かに見立てて、イメージをふくらませて表現することができる。	形を変えたり、音が出たりする新聞紙の特徴をつかませることで、経験できないような動きや新しい動きを発見して、表現を創っていくことができる。	新聞紙からとらえるイメージが様々で、仲間の新しい動きを発見したりして、表現を楽しむことができる。
もの(小道具)を使う	身近なもの(布、ゴム、ビニール袋、風船、棒、カラーコーン)	ものを何かに見立てて、イメージをふくらませたり、場面の転換に変化を付けたりして表現することができる。	それぞれのものが持つ特性を生かして、ものを扱うだけでなく、全身を使って空間を変化させながら、表現を創っていくことができる。	様々なものから発想を広げたり、仲間とイメージを出し合いながら表現したりして、楽しむことができる。
群(集団)の動き	集まる－とび散る	仲間とかかわり合いながら密集や分散を繰り返したり、空間を使ってダイナミックな動きで表現することができる。	ユニゾンやカノン、シンメトリーなど群を生かしたり、ソロの動きを生かしたりして表現を創っていくことができる。	グループの人数を増やして群を生かすことの楽しさを知り、集まることの安心感があって、表現することを楽しむことができる。

(3) 本單元における具体的支援の工夫について

○学習環境の工夫

創作ダンスでは、多様なテーマから、自分がイメージしたことを即興的に表現し、仲間とかかわって踊るために、学習環境の雰囲気づくりが大切だと考える。そこで、本單元では、以下のように、物理的側面、人的側面の2つの側面から学習環境の工夫を図った。

時	題材		構成活動	再構成活動1	再構成活動2
1	オリエンテーション	教	ペーパームーブメント (D' abordD' abord / Rachid Taha)	参考作品 (エトピリカ/「情熱大陸」より)	/
		物	具体の例示	DVD視聴	
		人	教師のリードで	全員で	
2	走る－跳ぶ－転がる	教	Rhythm and Police / 「踊る大捜査線」	Pump / 「Taxi」	Pump / 「Taxi」
		物	具体の例示		
		人	グループ活動 (3人)	グループ活動 (6人)	グループ活動 (6人)

3	スポーツ いろいろ	教	Eye of the Tiger/「ロッキ ーのテーマ」	熱くなれ/大黒摩季	熱くなれ/大黒摩季
		物	具体の例示		
		人	ペア活動	グループ活動(4人)	グループ活動(4人)
4	新聞紙	教	アゲハ蝶/ポルノグラフィ ティ	5, 6, 7, 8/Steps	5, 6, 7, 8/Steps
		物	具体の例示		
		人	ペア活動	ペア活動	グループ活動(5~6人)
5	身近なもの	教	秋の色ほか数曲/「ダンスミュージック 100%」創作ダンス(I)より		
		物	具体の例示		
		人	教師のリードで	グループ活動	グループ活動
6	集まるー とび散る	教	おもちゃのマーチほか数曲/「ダンスミュージック 100%」創作ダンス(I)より		
		物	具体の例示		
		人	教師のリードで	グループ活動	グループ活動
単元全体		物 聴	キャッチフレーズの掲示、ヒントカードの掲示、前時のまとめ 授業前のBGM、Bluetooth対応スピーカーの活用		

5 学習指導の実際と考察

やってみる段階 (1/8)

ねらい

紙1枚を使ったペーパームーブメントの活動を行って表現の仕方をつかむとともに、創作ダンスの作品鑑賞を通して創作ダンスの特徴を見出すことができるようにする。

生徒の活動の様子と教師の支援

まず、【資料23】に示すように、単元の導入として、ペーパームーブメントを行い、A4サイズの紙1枚を使って、手のひらに当てて走ったり、腹部に当てて走ったりした。他にも、紙を手のひらに乗せて回転したり、腕を高く伸ばしてから床まで動かしたり、教師の動きを模倣して行った。

次に、【資料24】に示すように、ペアになって、体の様々な部位を使って紙を受け渡したり、紙に触れている体の部分を意識して自由に動いたりした。ペアを変えながら、いろいろな仲間と交流し、紙の質感を意識させて、「音を立てないように」「やさしく、ふわっと」など声をかけながら活動させた。

【資料23:紙を使って表現の仕方をつかむ生徒】



【資料24:ペアになって紙渡し活動を行う生徒】



最後に、【資料 25】に示すように、紙からイメージした動きを曲に合わせて即興的に表現していった。仲間と一緒に新しい動きを考えたり、ゆったりとした曲に合わせて高低の変化を付けたりして表現している生徒の姿がうかがえる。

【資料 25：自分たちで即興的に表現する生徒】



このように、ペアになってペーパームーブメントを行ったり、曲に合わせて即興的に表現したりすることを通して、【資料 26】の感想にあるように、「紙を使って表現するのがとても楽しかった」「紙一枚を使っただけで、たくさんの動きができた。次回もがんばります。」と紙を使った表現の楽しさに触れ、紙を使った表現の仕方を理解して、これからの学習への意欲が高まっている様子うかがえる。また、「優しく静かに扱うのを工夫した」のように紙の質感を意識して表現を工夫している記述が見られた。

【資料 26：授業後の生徒の感想】

紙を使って表現するのがとても楽しかった。優しく静かに扱うのを工夫しました。

紙一枚を使っただけで、たくさんの動きができたので、いいと思いました。
次回もがんばります。

【資料 27：真剣な表情で鑑賞する生徒】

紙を使ったペーパームーブメントの後で、創作ダンスの「全日本高校大学フェスティバル」の作品を鑑賞した【資料 27】。その中でも、新聞紙を使った作品や教室で使用している机を使った作品を選び、視聴させることで、【資料 28】の感想のように、身近なものを使った表現の仕方や既習の現代的なリズムのダンスとの違いを考え、創作ダンスの特徴をつかむことができた様子うかがえる。



【資料 28：授業後の生徒の感想】

表現のしかたもいろいろあるなと思いました。
DVDで見た新聞紙を使った表現が、かもしろいなと思いました。

考察

○ 身近にある紙を使ったペーパームーブメントで即興的に表現して踊ったり、創作ダンスの作品鑑賞をさせたりしたことは、様々な表現の仕方をつかませたり、現代的なリズムのダンスとの違いに気付かせ、創作ダンスの特徴を理解させたりする上で有効であった。

ひろげる段階 (2/8～6/8)

ねらい

様々なテーマや題材から表したいイメージをとらえ、動きを誇張したり、連続させたり、メリハリを付けたりして、ひと流れの動きで即興的に表現して踊ることができるようにする。

生徒の活動の様子と教師の支援

ここでは、「身近な生活や日常動作」というテーマで、「スポーツいろいろ」という題材での学習活動を中心に述べる。

まず、構成活動において、動きの誇張(大げさに)や連続(くり返し)、変化とメリハリを付けた表現の基本的な動きを身に付けるために、【資料29】に示すように、教師の動きを参考にし、ペアになってボクシングの動きを表現した。大きな動きでパンチしたり、大げさにパンチをかわしたり、パンチを連打するなど、変化とメリハリを付けた動きで表現させた。BGMには、「ロッキーのテーマ」を選び、ボクシングの雰囲気が出るように工夫した。また、【資料30】に示すように、次々にペアを変えて行うことで、一人一人の表現の違いに気づき、仲間とかかわりながら楽しく活動していった。

このような構成活動を通して、生徒は【資料31】の感想にあるように、「いつもあまり話さない人とペアを組んで楽しかった」「恥ずかしがらずにできて楽しかった」と、ペアを変えて多くの仲間とかかわったり、教師の動きを模倣して、表現の仕方を身に付けたりして、積極的にかかわって踊る楽しさや恥ずかしがらずに夢中で踊る楽しさを実感している様子が見えてくる。

【資料29：ペアになってボクシングを表現する生徒】



【資料30：ペアを変える時に

ハイタッチする生徒】



【資料31：授業後の生徒の感想】

今日は、いつもあまり話さない人とペア(コンビ)を組んで、楽しかったです。

今日は、あまりはにかしがらずにできて、楽しかったです。

次に、再構成活動1では、スポーツかるた【資料32】を使って、グループで移動しながら、かるたをめくり、裏に書かれているスポーツの写真を見て、その場で即興的に表現して踊るという活動を行った。次頁の【資料33~36】に示すように、実際に経験のないスポーツでも、その写真の様子を模倣したり、写真からイメージをふくらませて、大きさに誇張したり、同じ動きを繰り返したりして表現させることで、ひと流れの動きで表現ができるようになった様子が見えてくる。また、かるたをめくるリーダーを順に交替することで、イメージをとらえにくい生徒には、仲間が手助けして表現ができるようになった様子が見えてくる。

【資料32:スポーツかるた】



【資料33: 移動しながらかるたをめくるリーダー役の生徒】



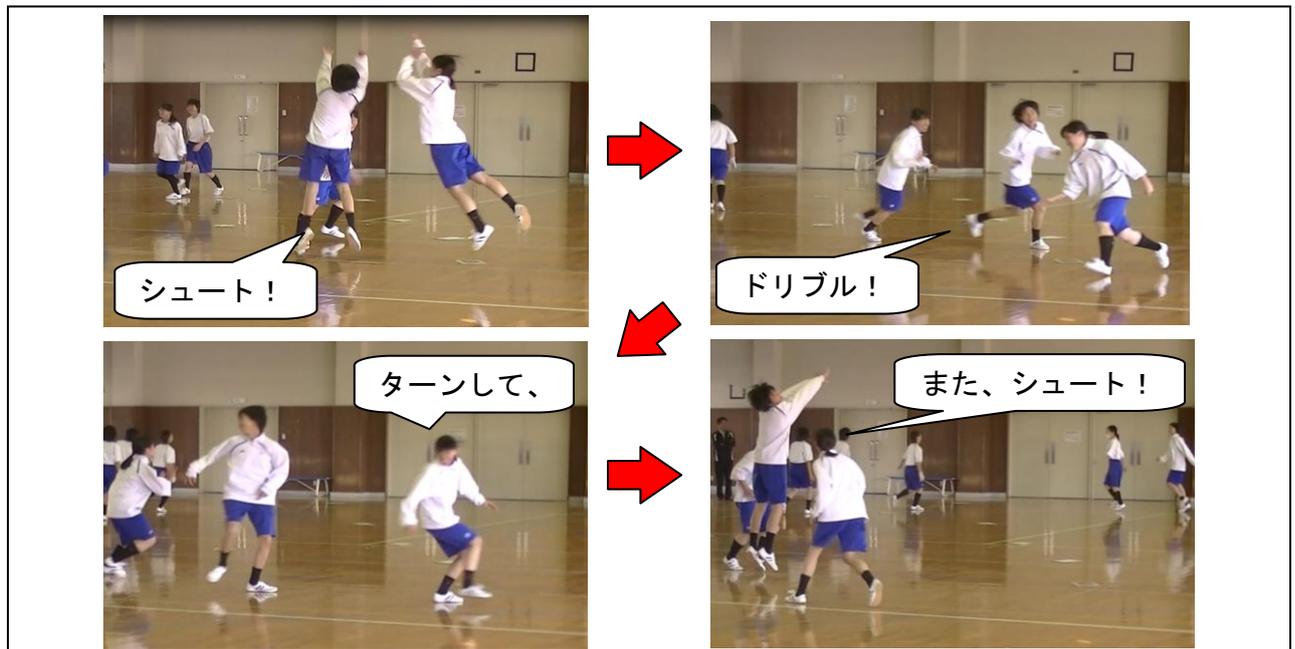
【資料34: 次のかるたに向かって移動する生徒】



【資料35: 重量挙げの場면을大きさに表現する生徒】



【資料36: 動きを連続させて表現する生徒】



また、ここでは、スポーツという題材からイメージがとらえやすく、次頁【資料37】【資料38】に示すように、表情や視線をつけることで、見る人にも伝わるような表現ができるようになった。さらに、よい動きや表現の例を取り上げて賞賛することで、次頁【資料39】の感想のように、生徒は仲間の動きを見ることで、よい動きや表現の仕方を理解することができ、よりよい表現に工夫しようという意識が高まっている様子が見えてくる。

【資料 37：表情をつけて表現する生徒】



【資料 38：視線をつけて表現する生徒】



【資料 39：授業後の生徒の感想】

栗林さんが視線を使って表現したのを見て、おどろいた。
とてもいい表現の仕方だと思った。

たのしかったです。もう少し表情もつけた方がよかったです。
かっこいいと思いました。

続いて、再構成活動2では、互いの表現を見せ合って、教師からの言葉かけや仲間からの評価や改善点を参考にして動きを創り変えていった。再構成活動1では、【資料40】のように、野球のイメージをふくらませて、ただ何となく試合の場面を表現していたグループが、再構成活動2では、仲間からの評価や改善点を参考にして、【資料41】のように、一番表したいホームランを打つ場面を強調するために、一人ずつの動きを少しずつずらした動きに創り変えて表現している姿を見取ることができる。

このように、仲間と見せ合って評価や改善点を交流することで、相手に表現したいイメージが伝わるように表現を工夫しようと動きを誇張したり、速さを変化させてメリハリを付けたりして、表現していた生徒の姿を見取ることができる。

【資料 40：試合の場面を表現する生徒】

【資料 41：場面を強調するために創り変えて表現する生徒】



これらの活動を通して、生徒は【資料42】の感想にあるように、「空間を生かして」踊ったり、「集まったりバラバラになったりして動きを工夫できた」と、変化を付けて表現している様子がうかがえる。

【資料 42：授業後の生徒の感想】

昨日よりも成長したと思った。空間を生かして7-7で踊れた。とても楽しかった。

集まったり、バラバラになったりしてできたのがよかった。
動きをくふうできた。

考察

- 構成活動を位置付け、題材に合った選曲を工夫したり、教師のリードで模倣させたり、具体的な表現の仕方を掲示したりしたことは、題材からイメージをとらえやすくし、変化を付けた動き方を身に付けたり、表現の仕方を理解させたりしていく上で有効であった。
- 再構成活動1を位置付け、ねらいとする表現の仕方に合わせてペアやグループで活動を行ったことや、スポーツかるたなどの教材や雰囲気合わせた選曲の工夫をしたことは、仲間のよい表現に気付くことができ、よりよい表現に工夫する構成力を高めていく上で有効であった。
- 再構成活動2を位置付け、互いに表現を見せ合って、その評価や改善点、教師からの言葉かけを参考にして動きを創り変えたことは、動きの誇張やメリハリを付けた動きで表現することができ、ひと流れの動きにして表現していく上で有効であった。

ふかめる段階 (7/8～8/8)

ねらい

自ら選択したテーマごとにグループになり、変化と起伏のあるひとまとまりのある動きにして表現し、発表会を行うことができる。

生徒の活動の様子と教師の支援

まず、導入において、前時までの学習を振り返るために授業の映像や写真を見て、自分の興味や関心に合ったテーマを選択した。

次に、再構成活動1では、同じテーマを選んだ仲間グループになり、テーマからとらえたイメージや動きについて意見を出し合った。そして、【資料43】の創作記録シートを使って、グループで意見を交流しながらイメージや動きを共有し、「はじめ—なか—おわり」のひとまとまりのある構成で表現できるようにしていった。

ここでは、【資料44】の感想のように、活動の中で互いにイメージをたくさん出し合い、作品を創りあげていく過程において「楽しい」と感じたり、見ている人に「わかりやすい表現」をして伝えようと、表現の仕方を工夫したりしている様子が見える。

【資料43：創作記録シート】

創作記録シート

選んだテーマ 『 _____ 』 メンバー: _____

1. 今日のめあて
自分の好きなテーマを選択し、グループでイメージをふくらませて表現しよう

2. イメージをどんどん出し合おう！(みんな紙にたくさん書いて、貼ってください)

3. 出してきたイメージからどんな劇で、一番伝えたい(=表現したい)イメージに、題名をつけよう！

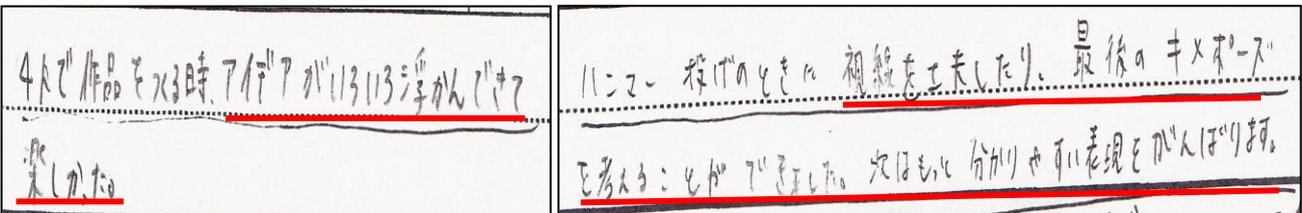
4. 一番伝えたい(=表現したい)イメージの動きに変化をつけて(大きさ、くり返し、メリハリなど)練習しよう！

見る人の気を引くよう書きましょう！

名前 _____

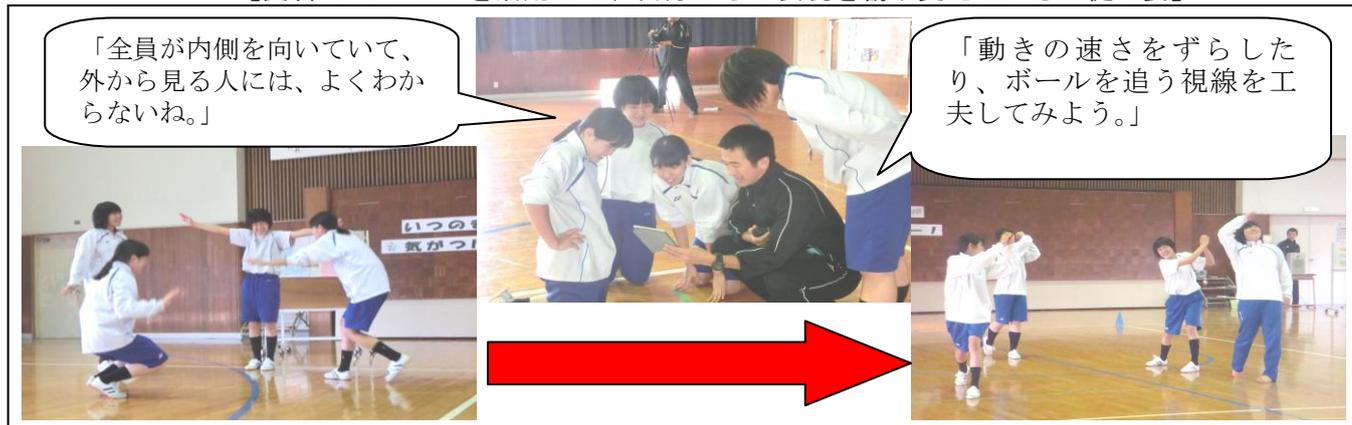
はじめ なか(一番伝えたいイメージ) おわり

【資料44：授業後の生徒の感想】



再構成活動2では、ICTを活用して自分たちの踊っている様子を撮影したことで、次頁【資料45】のように、その場で視聴して動きのよさや課題に気づき、すぐに動きを創り変える生徒の姿を見取ることができた。

【資料 45：ICT を活用して、自分たちの表現を創り変えている生徒の姿】



考察

- 導入の段階において、前時までの授業の映像や写真を見て、振り返りをさせたことは、自分の興味や関心に合ったテーマを選択させていく上で有効であった。
- 再構成活動1において、テーマからとらえたイメージや動きを共有させるために、創作記録シートを活用したことは、イメージを「はじめ—なか—おわり」のひとまとまりのある動きにして表現する上で有効であった。また、グループの仲間と協力して創り、仲間と交流して踊る楽しさを実感させていく上でも有効であった。
- 再構成活動2において、ICTを活用して、自分たちの動きをその場で確認しながら動きを創り変えたことは、見る人に「わかりやすい表現」をしようと工夫したり、ふさわしい表現を考えたりすることができ、構成力を高めていく上で有効であった。

6 全体考察

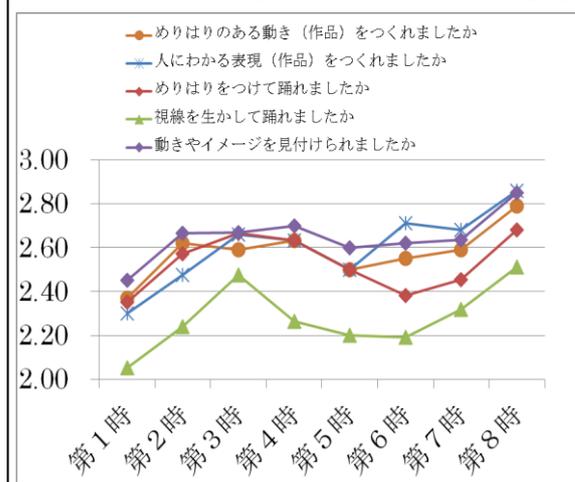
(1) 成果について

①再構成活動を位置付けた単元構成の工夫

「やってみる」段階、「ひろげる」段階、「ふかめる」段階の3つの段階に分け、各段階で資質や能力を高めていったことで、表現する楽しさを味わう生徒を育てることができた。

その根拠として、【資料 46】から、形成的授業評価（おどる・つくる）が、題材によって若干の減少はあったものの、単元を通して上昇していることが挙げられる。これは、表したいイメージをとらえて表現できるようになった身体表現力や、人にわかるようにイメージにふさわしい動きを創り出した構成力が徐々に高まっていることの表れであると考えられる。

【資料 46：形成的授業評価（おどる・つくる）の推移】



また、構成活動で身に付けた動きをもとに、ペアを変えたり、グループの中で互いに模倣したりしながら、変化やメリハリを付けて即興的に動きを創って踊る再構成活動1を位置付けたことは、【資料47】の感想の記述にあるように、同じテーマでも、表したいイメージによって、様々な表現ができることに気づき、仲間と交流して踊る楽しさを実感させる上で有効であった。

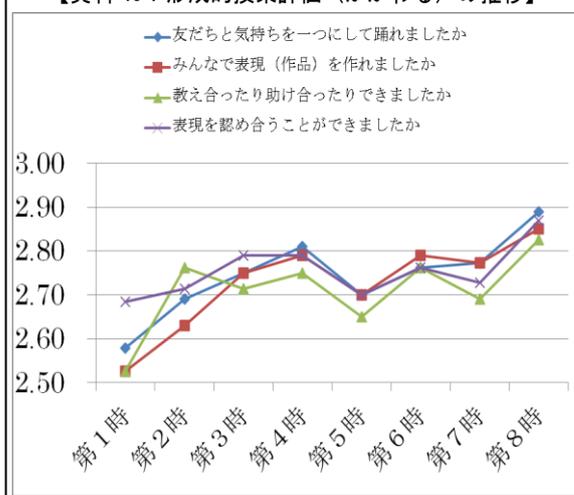
【資料47：授業後の生徒の感想】

共通点があるものでも表現する人によって
ちがうということが分かった。

さらに、互いの動きを見せ合って、評価や改善点をもとに、動きを創り変える再構成活動2を位置付けたことは、互いのよさを認め合うことができ、動きを創り変えて簡単な作品にまとめていく過程で仲間との絆も深まり、仲間と交流して踊る楽しさを実感させる上で有効であった。

これらの根拠として、【資料48】から、形成的授業評価（かかわる）が、単元を通して上昇していることが挙げられる。これは、仲間と認め合って協力しながら踊ることができ、仲間と交流して踊る楽しさが実感できたことがうかがえる。また、【資料49】の感想の記述からも明らかになっていると考えられる。

【資料48：形成的授業評価（かかわる）の推移】



【資料49：授業後の生徒の感想】

皆で一つになれたと思うし、とてもたのし
かったです。

②生徒の実態やダンスの特性に即した教材化の工夫

「対極の動きの連続」、「身近な生活や日常動作」、「ものを使う」、「群の動き」の4つのテーマを取り上げ、3つの視点（価値性・発展性・活動性）から、5つの題材を選定し、教材化を図ったことは、生徒がイメージをとらえやすくなり、関心や意欲を高めることができ、表現する楽しさを味わう上で、有効であったと考える。その根拠として、次頁【資料50】のような感想の記述が見られたことが挙げられる。特に、「いろいろイメージがわいた」という感想のように、教材化の工夫によって、イメージをとらえやすくなり、表したいイメージで踊ることにもつながっていくことがうかがえる。また、「色々工夫できることがあり、楽しかった」という感想のように、教材化の工夫によって、構成力の高まりにつながっていったことがうかがえる。

【資料 50：授業後の生徒の感想】

いろいろ、物をつかして、いろいろ、人々へ、それが
おもしろいのか、とて、おもしろい。

新聞を使って、デジタルで表現するのが、
とても楽しかった。

③再構成活動を活発にする具体的支援の工夫について

創作ダンスの特性を知るために、視聴覚機器を使って作品を鑑賞させたことは、【資料 51】の感想の記述にあるように、現代的なリズムのダンスとの違いに気づき、創作ダンスの特性を理解したり、特徴的な表現の仕方を身に付けたりする上で有効であった。

また、変化をつけた動きのポイントを把握する資料を掲示したことは、【資料 52】の感想の記述にあるように、よい動きを理解したり、変化の付け方を理解して動きを工夫したりする上で有効であった。

さらに、構成活動において Bluetooth 対応スピーカーと iPhone を使い、曲の選択や音量などの音響操作を、生徒と一緒に踊りながら遠隔操作できたことは、動きを途切らすことなく、教師の動きを模倣したり、特徴的な動きの例示を理解したりする上で有効であった。

【資料 51：授業後の生徒の感想】

紙を使って、こんなダンスがあるんだと思った、リズミィダンスと
違って静かだね、きれいなダンスだねと思った。

【資料 52：授業後の生徒の感想】

次は色々な動きをして、空間を上手く使いたいです。

(2) 課題・改善案について

- 新聞紙を何かに見立てて、イメージしたことを表現して踊ることができず、動きが小さい生徒がいた。これは、構成活動で新聞紙の通りに動くことが十分に身に付いていないことに課題があったからと考える。そこで、今後は新聞紙でどんな動きができるのかを生徒に試させるなど、生徒から動きを引き出していく必要がある。

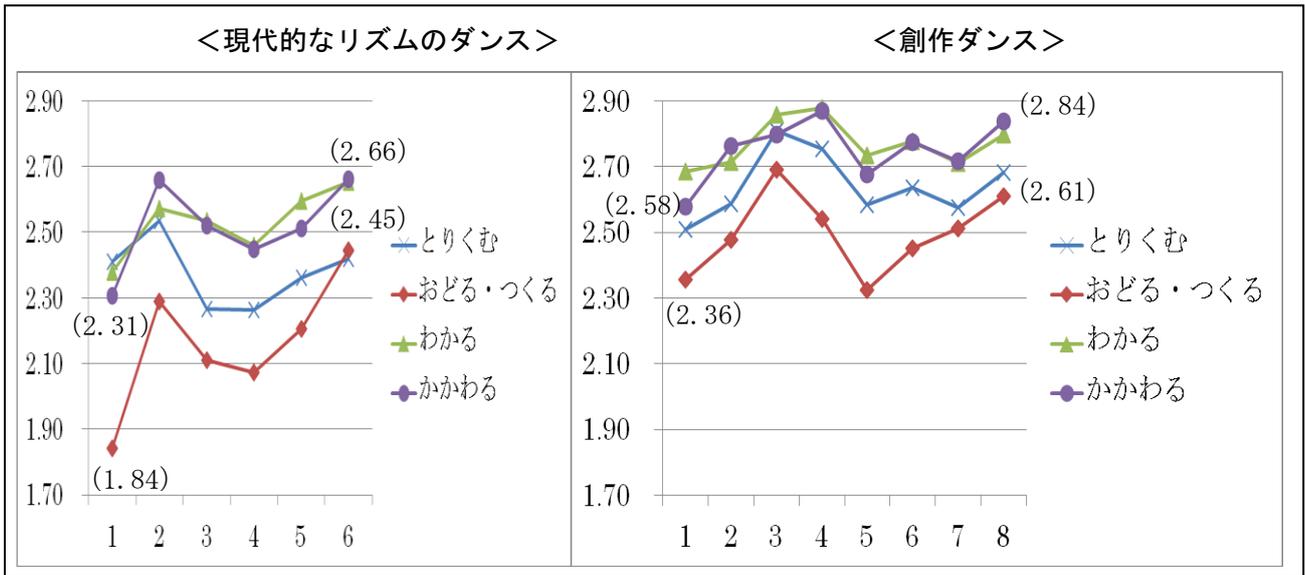
Ⅶ 研究のまとめ

1 成果について

(1) 再構成活動を位置付けた単元構成の工夫について

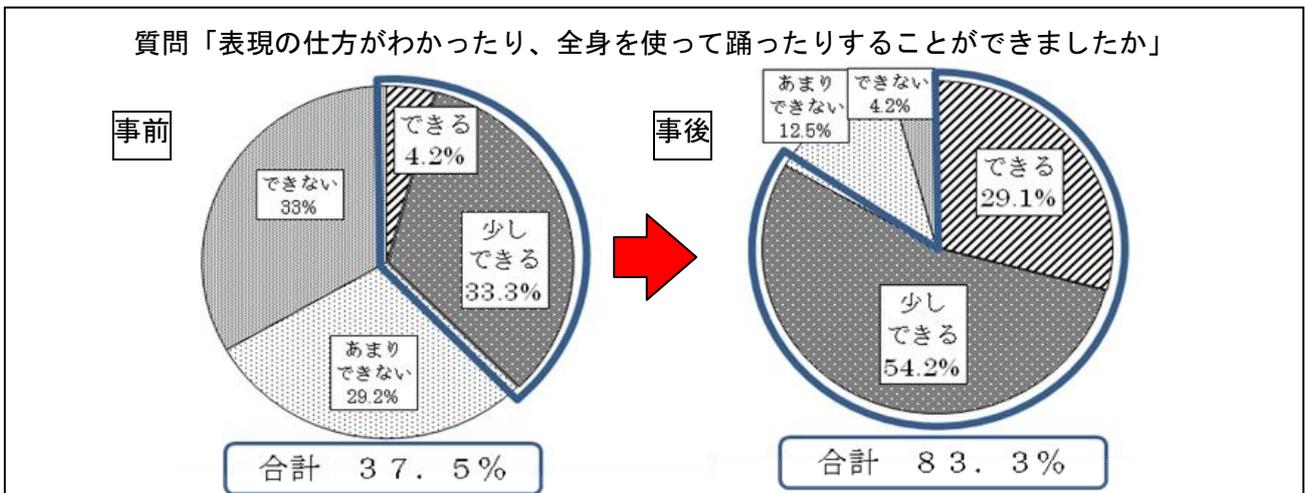
【資料 53】から、形成的授業評価（おどる・つくる）が単元を通して上昇していることがわかる。現代的なリズムのダンスでは1.84から2.45に、創作ダンスでは2.36から2.61に上昇している。このことから、「やってみる」段階、「ひろげる」段階、「ふかめる」段階の3つの段階に分け、再構成活動を位置付けたことは、身体表現力や構成力を高める上で有効であったと考える。

【資料 53：形成的授業評価の変容】



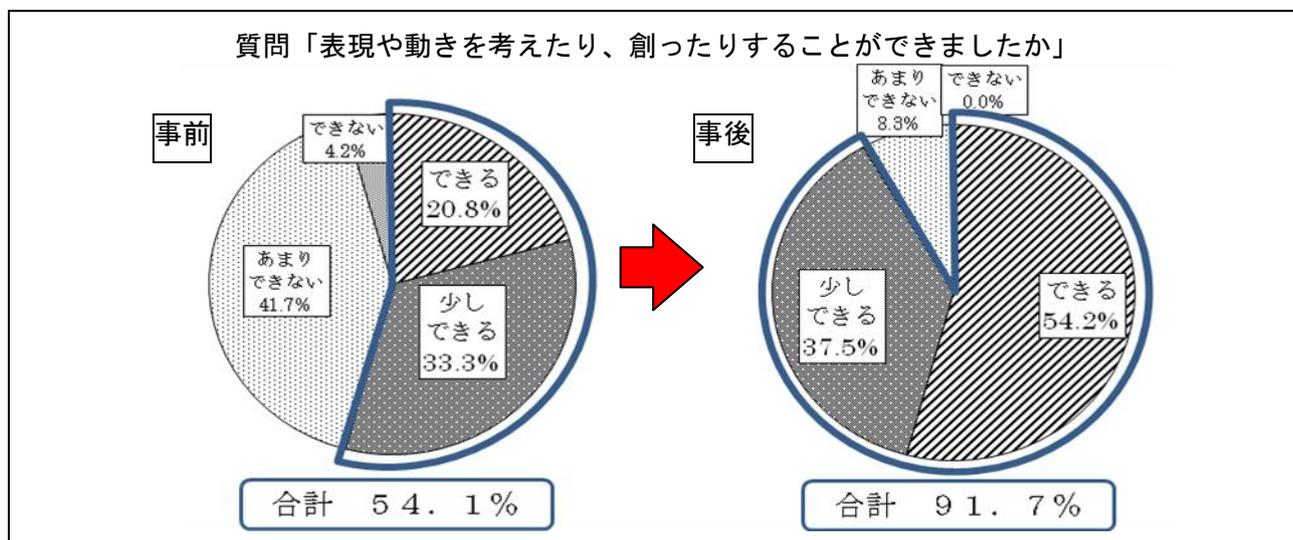
また、【資料 54】から、「表現の仕方がわかったり、全身を使って踊ったりすることができましたか」の質問に、「できる」「少しできる」と回答した割合の合計が、37.5%から83.3%に増加した。このことから、基本的な体の動き方や表現の仕方を理解する構成活動、そのことをもとにして全身で踊ったり、変化を付けた動きで即興的に踊ったりする再構成活動1を位置付けたことは、身体表現力を高める上で有効であったと考える。

【資料 54：身体表現力についてのアンケート結果】



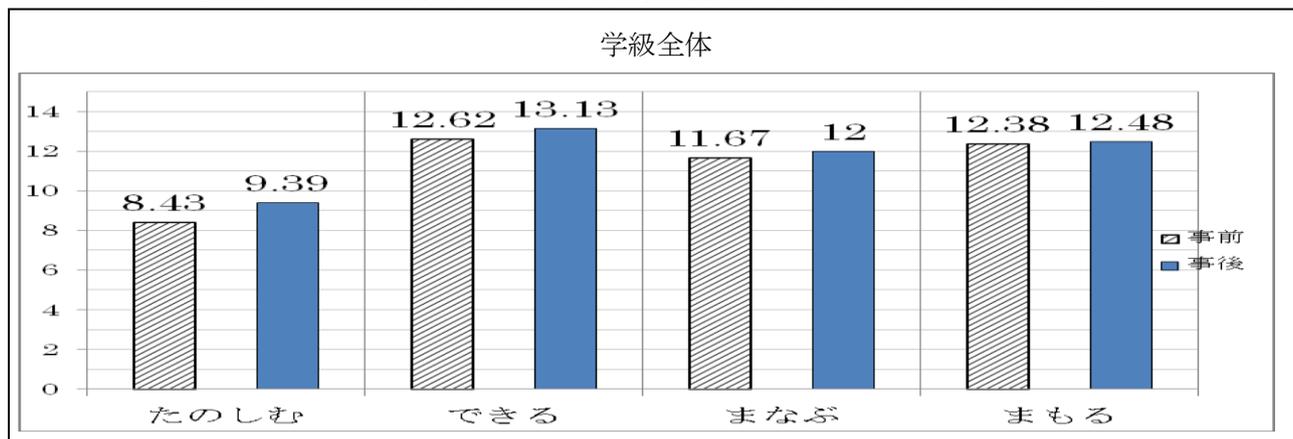
さらに、【資料 55】から、「表現や動きを考えたり、創ったりすることができましたか」の質問に、「できる」「少しできる」と回答した割合の合計が、54.1%から91.7%に増加した。このことから、再構成活動1で創った動きを交流し、仲間のよい動きや表現を認め合いながら、動きを創り変える再構成活動2を位置付けたことは、構成力を高める上で有効であったと考える。

【資料 55：構成力についてのアンケート結果】



加えて、【資料 56】から、学級全体の「できる」の因子が12.62から13.13へ上昇している。このことから、再構成活動を位置付けた単元構成を工夫したことは、身体表現力や構成力を高める上で有効であったと考える。

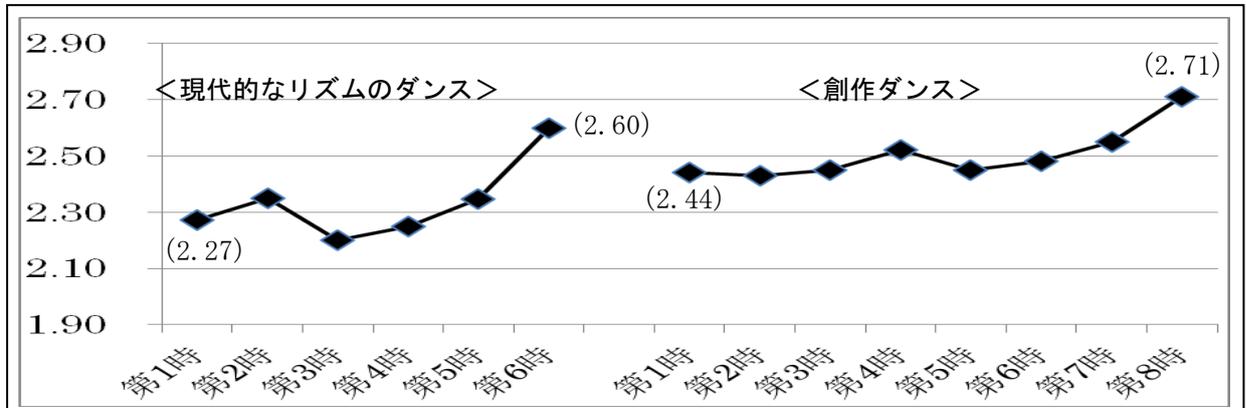
【資料 56：診断的評価（事前）と総括的評価（事後）の学級平均の比較】



次頁【資料 57】から、「恥ずかしがらずに夢中になって踊ることができましたか」という項目が、現代的なリズムのダンスでは2.27から2.60に、創作ダンスでは2.44から2.71に上昇している。このことから、「やってみる」段階、「ひろげる」段階、「ふかめる」段階の3つの段階に分け、再構成活動を位置付けたことは、イメージやリズムの世界に没入して踊る楽しさを実感する上で有効であったと考える。本研究では、没入して踊るとは、イメージやリズムの世界にひたり、恥ずかしがらずに夢中になって踊る様子にとらえている。つまり、

【資料 58】の感想の記述にあるように、単元を通して、恥ずかしがらずに夢中になって踊ることができるようになっていったことで、イメージやリズムの世界に没入して踊る楽しさを実感することができたと考える。

【資料 57：質問「恥ずかしがらずに夢中になって踊ることができましたか」の回答結果】

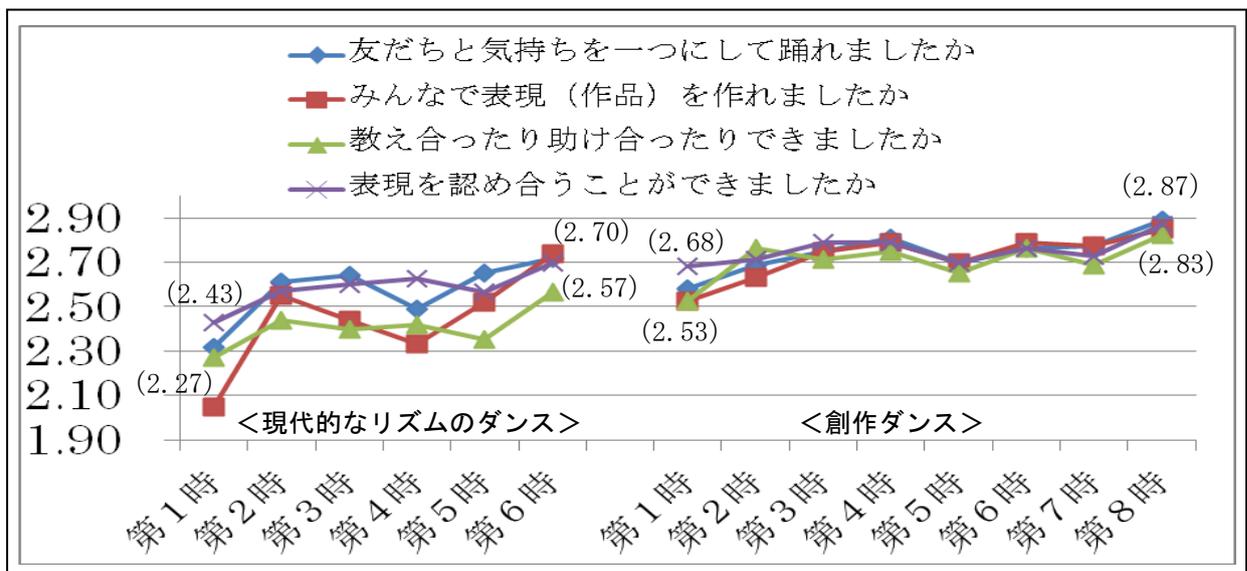


【資料 58：単元後の生徒の感想】

少しは恥ずかしがらなくなり、友達とあそぶことができて、はしゃげることが多くなりました。

また、33 頁【資料 53】から、形成的授業評価（かかわる）が、単元を通して上昇していることがわかる。現代的なリズムのダンスでは 2.31 から 2.66 に、創作ダンスでは 2.58 から 2.84 に上昇している。本研究では、仲間と交流して踊るとは、誰とでも積極的にかかわり、互いのよさを認め合って協力しながら踊る様子にとらえている。【資料 59】から、「表現を認め合うことができましたか」の項目が、現代的なリズムのダンスでは 2.43 から 2.70 に、創作ダンスでは 2.68 から 2.87 に上昇し、「教え合ったり助け合ったりできましたか」の項目が、現代的なリズムのダンスでは 2.27 から 2.57 に、創作ダンスでは 2.53 から 2.83 に上昇している。これらのことから、互いの表現のよさを認め合って協力しながら踊ることができていったことで、仲間と交流して踊る楽しさを実感することができたと考える。

【資料 59：仲間とのかかわりに関するアンケート結果】



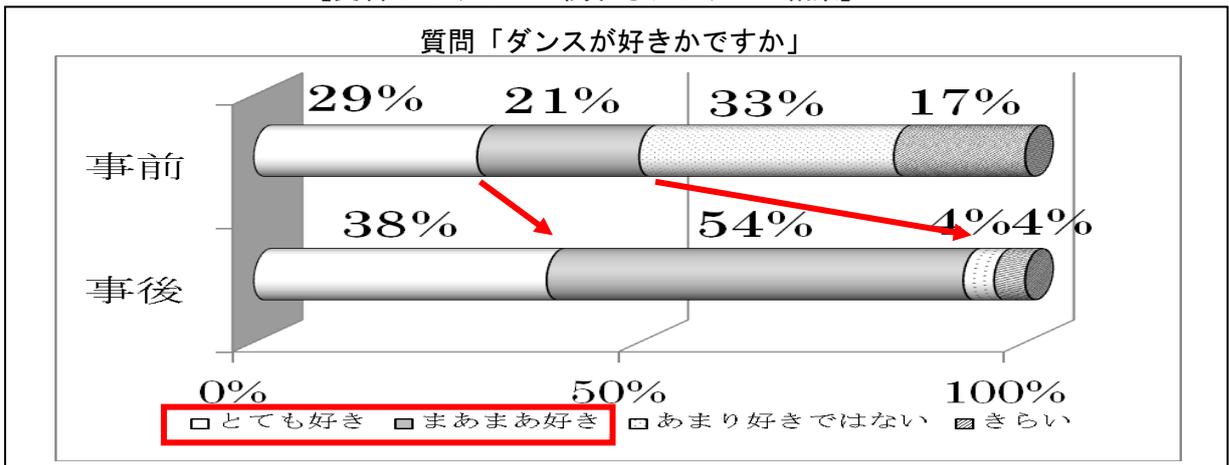
加えて、【資料 60】の感想の記述にあるように、単元を通して、互いの表現のよさを認め合って協力しながら踊ることができていったことで、仲間と交流して踊る楽しさを実感することができたと考える。

【資料 60：単元後の生徒の感想】

最初はダンスなんて...と思っていたけど、授業をうけていたら
友達とダンスすることがとんとんたのしくなっていました。
 もとダンスしたかったです！時にはうまく表現できない
 ときもあったけど、自分なりの表現が精一杯がんば
ったので笑顔でたのしむことができました。

最後に、【資料 61】から、「ダンスが好きですか」の質問に、「とても好き」「まあまあ好き」と回答した割合の合計が、50%から 92%に増加した。このことは、単元を通して、イメージやリズムの世界に没入して踊る楽しさと仲間と交流して踊る楽しさを十分に実感することができたことで、ダンスに対して好意的になったと考える。

【資料 61：ダンスに関するアンケート結果】



(2) 生徒の実態やダンスの特性に即した教材化の工夫について

題材や曲を取り上げる際に、基本的な動き方が身に付き、表現することができるような価値性の視点から選定したことは、【資料 62】の感想の記述にあるように、表現の仕方や動きの誇張、変化の付け方を身に付け、身体表現力を高める上で有効であったと考える。

【資料 62：単元後の生徒の感想】

とても楽しかったです。 今までのダンスと違って、基本的なこと
やったのでよく学びました。 ありがとうございます!!! (๑)
大きく動いたり、跳んだりしゃべったりして、体を動かし、
たりしくできた。

また、新しい動きを考えたり、創り出したりすることができるような発展性の視点から選定したことは、【資料 63】の感想の記述にあるように、表したいイメージやリズムの特徴に合わせて動きを選んだり、創り変えたりすることを楽しみながら、構成力を高める上で有効であったと考える。

【資料 63：単元後の生徒の感想】

この前と、変えたけど、うまくいってよかった。7"11-7"のみんぼと、意見を出して、いい作品にしていくのもとても楽しいです。ダンス、たのしかったです。

さらに、生徒が今もっている力で楽しむことができるような活動性の視点から選定したことは、【資料 64】の感想の記述にあるように、生徒の実態を踏まえ、毎回異なる題材や曲を設定することで、ダンスを好きになって毎回の授業を楽しむ上で有効であったと考える。また、34 頁【資料 56】から、学級全体の「たのしむ」因子が 8.43 から 9.39 へ上昇していることから、その有効性がうかがえる。

【資料 64：単元後の生徒の感想】

また、ダンスの曲も私たちが知っている、なじみのある曲ばかりだったのもダンスが好きになった理由の一つです。
毎回の授業がとってもたのしくて、毎回たのしみにしていました。
~~→~~ 体がだげじゃなく、ものをかって表現することを
知りました。

(3) 再構成活動を活発にする具体的支援の工夫について

指導言語の工夫について、「集まる-とび散る」という題材での学習活動を例に述べる。

【資料 65】のように、「爆発」をイメージした表現では「もっと大きさにしてみたら、どうなるかな？」という指導言語により、その場で横に倒れるような動きから、一人一人が全身を使った大きな動きで爆発を表現し、とび散った様子が見られ、空間を大きく使った表現に変わっていった。

【資料 65：「爆発」をイメージして表現する生徒】



また、【資料 66】の感想のように、教師からの指導言語が動きを創り変えるための参考になったことがわかる。

【資料 66：授業後の生徒の感想】

<p>○先生から声をかけてもらったり、ほめられたりしましたか。 <具体的なことば></p>	<p>(はい・いいえ) <動きや気持ちの変化></p>
<p><u>もたげさにしたさ?</u></p>	<p>大げさにするとより爆笑してみたいな。</p>

さらに、学習環境の工夫については、ペア活動では、たくさんの人とペアになるように毎回相手を変えながら、グループ活動では様々な組み方で毎時間固定しないようにグルーピングを工夫した。このように、多くの仲間とのかかわりをもたせたことで、【資料 67】の感想のように、積極的に仲間と交流して踊る楽しさを実感していったことがうかがえる。また、33 頁【資料 53】や 35 頁【資料 59】からも、仲間とかかわりながら、教え合ったり、認め合ったりすることが、仲間と交流して踊る楽しさを実感する上で有効であることが明らかになっている。これらのことから、グルーピングの工夫が仲間と交流して踊る楽しさを実感することにつながったと考える。

【資料 67：授業後の生徒の感想】

<p><u>おへそを動かしたり、全身を使って踊るのはすごく大変だった</u> <u>けど楽しかった。クラスのちがう友達とも楽しめてよかった。</u></p>
<p><u>やっぱり仲間のとこエんの踊りが好きで、の、ちが楽しかった。</u> <u>次は、あまり喋りはい人とペアを組みたい。</u></p>

2 課題・改善案について

- 再構成活動の互いに見せ合って交流する場面において、評価や改善点の意見交流やふせんに書いて交換する方法を行ったが、感想だけを交流する生徒がいた。よい動きを見る視点の簡素化など、生徒が動きをとらえやすく、相互評価しやすい交流方法の工夫がさらに必要である。
- 今回は、中学2年の女子生徒を対象に研究を進めてきた。今後は、男子生徒を対象にした学習や男女共習によるダンス領域の学習指導について明らかにしていきたいと考える。

引用・参考文献

- ・ 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 2008
- ・ 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 2008
- ・ 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 2009
- ・ 学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及びダンス指導の手引 文部科学省 2013
- ・ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校保健体育】
国立教育政策研究所 2011
- ・ マイネル スポーツ運動学 クルト・マイネル著 金子明友訳 大修館書店 1981
- ・ 学校体育授業辞典 阪田尚彦・高橋健夫・細江文利編集 大修館書店 1995
- ・ 学校体育用語辞典 松田岩男・宇土正彦編集 大修館書店 2001
- ・ 体育の授業と教授技術 阪田尚彦著 大修館書店 1990
- ・ 体育授業の心理学 市村操一・阪田尚彦・賀川昌明・松田泰定 編著 大修館書店 2002
- ・ 身体表現～からだ・感じて・生きる～ 柴真理子著 東京書籍 1993
- ・ 舞踊学講義 舞踊教育研究会 編著 大修館書店 1991
- ・ 学びの身体技法 佐藤学著 太郎次郎社 1997
- ・ 新版 体育科教育学入門 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖 編著 大修館書店 2010
- ・ 体育の教材を創る 岩田靖著 大修館書店 2012
- ・ 体育授業を観察評価する 高橋健夫 編著 明和出版 2003
- ・ 体育における学習意欲の喚起に関する研究 西田保 編著 杏林書院 2004
- ・ 平成 24 年版観点別学習状況の評価規準と判定基準[中学校保健体育]北尾倫彦監修 図書文化 2012
- ・ 楽しい表現運動・ダンス 村田芳子 編著 小学館 1998
- ・ 表現運動・表現の最新指導法 村田芳子 編著 小学館 2011
- ・ 表現運動・リズムダンスの最新指導法 村田芳子 編著 小学館 2012
- ・ 明日からトライ！ダンスの授業 全国ダンス・表現運動授業研究会 編著 大修館書店 2011
- ・ 中等教育資料（平成 26 年 8 月号） 文部科学省 2014
- ・ 女子体育（第 55 巻第 8・9 号） 日本女子体育連盟 2013
- ・ 体育の年間指導計画 福岡プラン 福岡県体育研究所 2010
- ・ 調査研究報告書「体育的学力」を育む授業づくり 福岡県体育研究所 2013
- ・ 「平成 23 年度 長期派遣研修員 研修報告書」 福岡県体育研究所 2011
- ・ 「平成 24 年度 長期派遣研修員 研修報告書」 福岡県体育研究所 2012
- ・ 「平成 25 年度 長期派遣研修員 研修報告書」 福岡県体育研究所 2013

おわりに

「教えることと学ぶこと」

1年間の長期派遣研修を終えようとしている今、振り返ってみると常にこの言葉を自問自答していたような気がします。今回、福岡県体育研究所で、1年間の長期派遣研修員として研修の機会を与えていただき、他では味わうことのできない貴重な経験をさせていただくことができました。

まず、1つ目は保健体育の研究です。

多くの文献から得られる知識だけではなく、専門研修において全国的に著名な講師の先生方から最新の情報を得ることができたり、直接ご指導をいただく機会を得ることができたりしたことは、大きな糧となり、この体育研究所で学ぶことの喜びを感じることができました。同時にこれまでの自分自身の未熟さと無知を痛感し、反省することばかりでした。自分の研究においても、イメージや理論を文章化することができない言語能力の低さに暗中模索する私に、指導主事の先生方は、時間を惜しまず一緒になって考えてくださり、的確なご助言やご示唆をしてくださいました。このことに対し、心より感謝いたします。

2つ目に、ここでしかできない体験や出会いです。

体育研究所には、校種を問わず多くの先生方が研修に来られます。その際に、小学校や高等学校の先生方と共に学び、お話する機会をいただけたことにより、「人を育てる」ということは、小・中・高だけでなく、その先の未来にまで続いているということに改めて気付きました。

また、学校現場では意識することのなかった、県の組織体の役割とその一員であるという責任の大きさを学びました。一つの研修を実施するために、それまでの綿密な計画と準備があり、一つでも多くのことを学んでもらいたいという教える側の情熱を感じることができました。

そして、同じ研究を進めていく仲間として苦楽をともにしてきた小学校、高等学校の長期派遣研修員との出会いです。互いに励まし合い、協力し合い、この2人との絆はかけがえのない財産となりました。体育研究所での学びに誇りと責任を持ち、これからもそれぞれのステージで学び続けたいと思います。

「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない」

これは、元サッカー代表監督ロジェ・ルメールの言葉です。目の前にいる生徒と、その生徒の未来のために、この言葉が「教えることと学ぶこと」に対しての自分自身の答えです。

最後になりましたが、今回このような貴重な研修の機会を与えていただきました、福岡県教育委員会、筑豊教育事務所、嘉麻市教育委員会に厚くお礼申し上げます。また、本研究を進めるにあたり、温かいご指導をいただきました、教育庁教育振興部体育スポーツ健康課、義務教育課、福岡県体育研究所の方々に深く感謝申し上げます。さらに、検証授業にご協力いただいた嘉麻市立稲築東中学校の本松校長先生、大森教頭先生、山口主幹教諭をはじめ、快く検証授業にご協力いただき、ご支援くださった学級担任の先生方や保健体育科の小野山先生、清水先生、2学年の先生方、そして何より、明るく笑顔で一生懸命学習に取り組んでくれた2年生女子の生徒たちに心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後とも、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成27年2月13日

長期派遣研修員 佐藤 祐樹（嘉麻市立稲築東中学校）